

## 基礎調査の実施結果/地域来訪者へのアンケート等

第1章. 下京区西部エリアの現況・歴史・変遷等の調査	
1. 下京区西部エリアの現況・動向の整理……………1	
2. 下京区西部エリアの歴史・変遷の整理……………7	
第2章. エリア内の施設等への来街者に対する 行動・利用状況等についてのアンケート調査	
1. アンケート実施概要……………11	
2. アンケート集計結果……………14	



# 第1章. 下京区西部エリアの現況・歴史・変遷等の調査

---

1. 下京区西部エリアの現況・動向の整理……………1
2. 下京区西部エリアの歴史・変遷の整理……………7

# 1. 下京区西部エリアの現況・動向の整理

## (1) 人口・世帯

ここでは、下京区の人口・世帯の現況特性を「国勢調査（及び推計人口）」などから分析するとともに、区内でも西部エリアがどのような状況にあるのかを明らかにする。

なお、西部エリアの現況については、南北は「五条通り」と「八条通り」、東西は「烏丸通り」と「七本松通り」内にかかる国勢統計区（概ね元学区）の数値をもとに分析を行う。

### 1) 人口規模と増減

①下京区：・H23年10月時点での下京区の推計人口は79,749人と、市内で2番目に少ない。また、世帯数も44,220と市内で3番目に少ない。

・一方、人口・世帯ともに増加率が高く、H17～22年では市内で最も高い増加率を示す。

②西 部：・西部エリア内でも、五条烏丸周辺（尚徳）や、梅小路公園西側（七条）では10%以上の増加率となっている。

### 2) 年齢別人口

①下京区：・H23年10月時点での下京区の推計人口は、前年に比べ、年少人口及び生産年齢人口ともに増加し、老年人口が減少している。

・なお、市全体、及び、大部分の区では、年少・生産年齢人口が減少、老年人口が増加。

②西 部：・H22年国勢調査によると、西部エリア内の西部（七条第三等）は年少人口割合が高く、エリア内東部（尚徳、皆山等）では生産年齢人口割合が7割を超える。一方で、エリア中央部（安寧、植柳等）では老年人口割合が3割程度と高い数値を示す。

### 3) 世帯当たり人員

①下京区：・H22年国勢調査によると、市全体の一世帯当たり人員が2.13人なのに対して、下京区では1.81人と、全区中最も少ない数値となっている。

・なお、単独世帯率は、市内で最も高い57.1%（6割近くが単独世帯）

②西 部：・H22年国勢調査によると、西部エリア内の西部（七条、大内等）は一世帯当たり人員が2.0人を超えており、エリア中央部から東部にかけては2.0人未満となっている。

・特に、京都駅前（皆山）では1.5人程度となっている。

### 4) 自然動態・社会動態

①下京区：・H22年10月時点で下京区の出生率は、南区・西京区に次いで3番目に高い数値を示す。

・また、転入・転出率ともに市内で最も高く、出入の激しい区であることが窺える。

②西 部：・西部エリア内で見ると、西部の出生率が高い。（上記のとおり年少人口も高い）

・また、烏丸通りから堀川通り周辺エリアが、転入・転出率ともに高い。

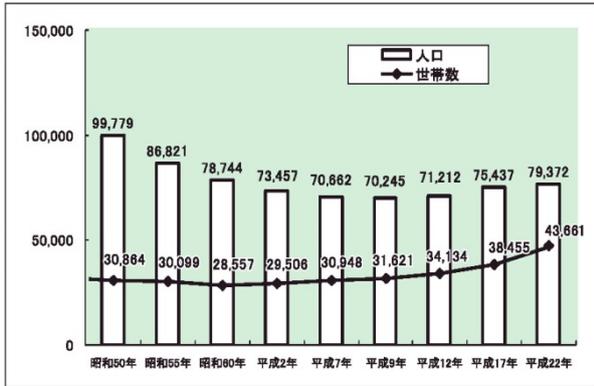
### 5) 昼夜間人口 等

①下京区：・H22年国勢調査によると、下京区の昼夜間人口比率は171.1%と、市内で最も昼間人口比率が高い。（市全体：108.5%）

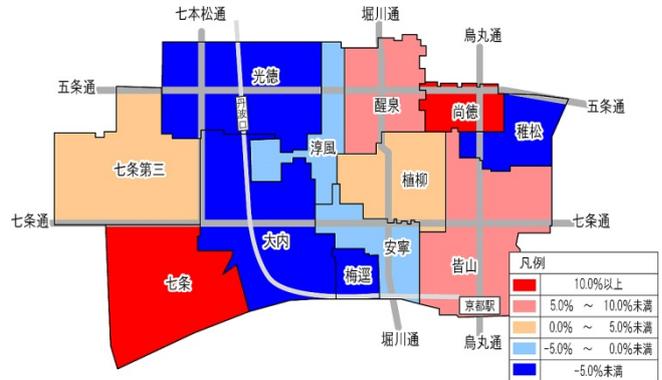
・しかしながら、H17年国勢調査時点では、下京区の昼夜間人口比率は190.8%であったことを考えると、近年の都心居住の進展も推測される。

・また、下京区では観光・交流人口も増加している。

### 下京区の人口動向



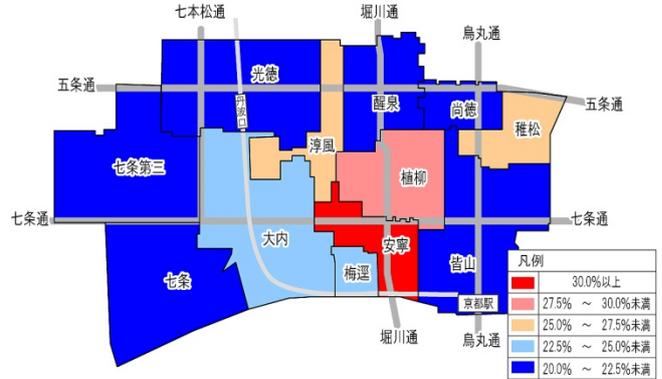
### 西部エリアの人口増減 (H17-H22 国調)



### 各区の年齢3区分別推計人口

行政区	平成23年		行政区	平成22年		行政区	平成23年		行政区	平成22年	
	人口	人口		年齢階級	人口		人口	年齢階級		人口	人口
京都市			中京区			南区					
0~14歳	174,460	175,398	0~14歳	11,382	11,189	0~14歳	11,980	12,103			
15~64歳	957,438	959,935	15~64歳	70,168	69,514	15~64歳	65,585	65,738			
65歳以上	341,518	338,682	65歳以上	24,675	24,603	65歳以上	21,000	20,903			
北区			東山区			右京区					
0~14歳	13,713	13,963	0~14歳	2,964	2,889	0~14歳	24,694	24,921			
15~64歳	77,919	78,396	15~64歳	25,278	25,474	15~64歳	131,039	131,102			
65歳以上	29,728	29,678	65歳以上	12,069	12,165	65歳以上	47,346	46,920			
上京区			山科区			西京区					
0~14歳	8,077	7,968	0~14歳	16,815	16,954	0~14歳	21,789	22,108			
15~64歳	54,431	54,314	15~64歳	86,505	87,304	15~64歳	99,211	99,936			
65歳以上	20,869	20,982	65歳以上	32,392	31,787	65歳以上	31,593	30,930			
左京区			下京区			伏見区					
0~14歳	18,101	18,095	0~14歳	7,817	7,761	0~14歳	37,128	37,447			
15~64歳	110,257	110,800	15~64歳	54,111	53,567	15~64歳	182,934	183,790			
65歳以上	40,199	39,907	65歳以上	17,821	17,959	65歳以上	63,826	62,848			

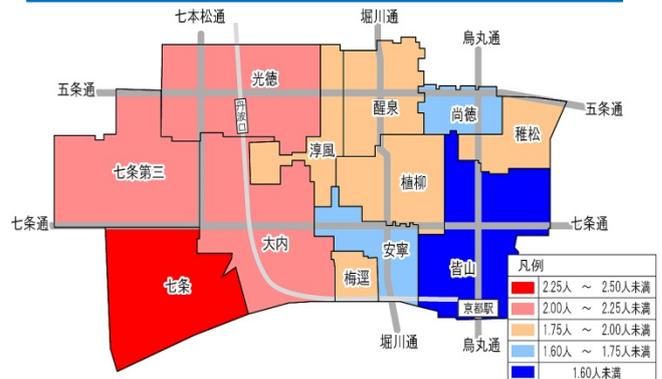
### 西部エリアの老年人口割合 (H22 国調)



### 各区の世帯人員と単独世帯率

一世帯あたり人員		単独世帯率 (%)	
行政区	H22	行政区	H22
北区	2.13	北区	43.2
上京区	1.90	上京区	53.7
左京区	2.00	左京区	49.1
中京区	1.88	中京区	54.2
東山区	1.86	東山区	52.6
下京区	1.81	下京区	57.1
南区	2.17	南区	41.4
右京区	2.21	右京区	39.4
伏見区	2.26	伏見区	37.0
山科区	2.26	山科区	35.6
西京区	2.47	西京区	28.3
京都市	2.13	京都市	42.9

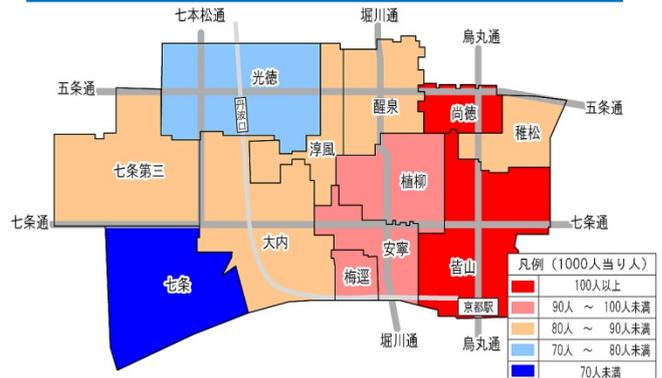
### 西部エリアの世帯人員 (H22 国調)



### 各区の転入・転出率

転入率 (1000人当り人)		転出率 (1000人当り人)	
行政区	H22.10 - H23.9	行政区	H22.10 - H23.9
北区	60.31	北区	61.74
上京区	86.50	上京区	80.68
左京区	74.83	左京区	73.99
中京区	93.24	中京区	83.55
東山区	75.60	東山区	72.05
下京区	106.22	下京区	99.54
南区	69.81	南区	71.97
右京区	63.77	右京区	62.08
伏見区	67.13	伏見区	67.91
山科区	59.68	山科区	62.07
西京区	62.06	西京区	66.70
京都市	71.24	京都市	70.55

### 西部エリアの転入率 (H22.10-H23.9 推計人口)



---

---

## (2) 産業（事業所数・従業者数）

---

---

ここでは、下京区の事業所数・従業者数等の現況特性を「経済センサス」などから分析するとともに、区内でも西部エリアがどのような状況にあるのかを明らかにする。

なお、西部エリアの現況については、人口同様、南北は「五条通り」と「八条通り」、東西は「烏丸通り」と「七本松通り」内にかかる国勢統計区（概ね元学区）の数値をもとに分析を行う。

### 1) 事業所数

- ①下京区：・H21年経済センサスによると、下京区における事業所数は、中京区、伏見区に次いで3番目に多い。なお、1㎢当たりの事業所数で見ると、中京区に次いで2番目に多い（中京区、下京区の実業所数が突出している）。
  - ・また、H13～21年の増減率をみると、市内全区が減少傾向にある中、下京区は0.1%減と、最も小幅な減少に留まっている。
- ②西部：・西部エリア内におけるH13～21年の増減率をみると、京都駅周辺（皆山、安寧）が高い増加率を示すのに対し、商店街を有する七条（七条商店街）や淳風（嶋原商店街）などの減少率の高さが目立つ。

### 2) 従業者数

- ①下京区：・H21年経済センサスによると、下京区における従業者数は、市内で最も多い12.5万人程度となっている。なお、1㎢当たりの従業者数は市内で最も多い。
  - ・また、H13～21年の増減率をみると、市内で最も高い増加率（18.2%増）となっている。
  - ・なお、1事業所当たりの従業者数は、南区に次いで2番目に多い14.2人であり、市内平均9.9人を上回る。（一定以上の規模を有する企業の集積も窺える）
- ②西部：・西部エリア内におけるH13～21年の増減率をみると、京都駅周辺（皆山）や、五条烏丸周辺（尚徳）周辺での従業者の増加が目立つ。

---

---

## (3) 土地利用等

---

---

ここでは、下京区の土地利用（特に住宅供給の動向）の現況特性を「住宅・土地統計調査」などから分析する。

### 1) 共同住宅供給

- ①下京区：・H20年住宅・土地統計調査によると、下京区の共同住宅割合は、全住居の64.2%と市内で最も高く、また、共同住宅に占める中高層住宅（3階以上）の割合は95.5%と、中京区に次いで2番目に高い値を示す。
  - ・また、H15～20年の増減率をみると、下京区では共同住宅が14.8%増加しており、特に、1・2階建の割合が19.3%減少しているのに対して、6～10階建が34.5%の増加、11階建以上が19.9%増加と、高層マンション需要の高さが窺える。

### 2) 土地利用

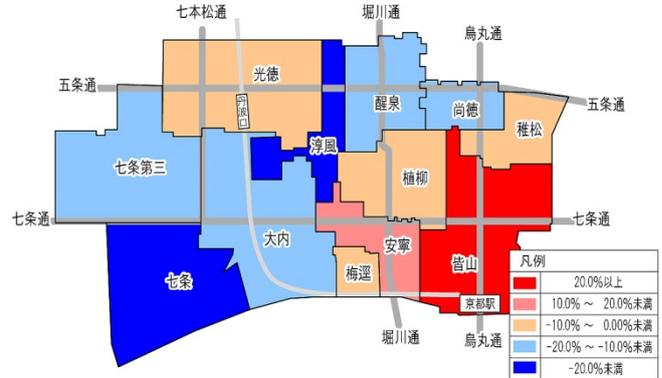
- ①下京区：・右図のとおり、下京区では商業系の土地利用が減少し、住宅系の土地利用が大幅に増加しているのが見てとれる。

### 各区の事業所増減率 (H13-H21 経済センサス)

事業所数増減率(%)

行政区	H13	H21	増減率(%)
北区	6573	6043	-8.1
上京区	7543	6147	-18.5
左京区	8543	7740	-9.4
中京区	12810	11517	-10.1
東山区	6516	5742	-11.9
下京区	8822	8815	-0.1
南区	6308	6211	-1.5
右京区	8854	8780	-0.8
伏見区	10666	10383	-2.7
山科区	5372	4990	-7.1
西京区	4829	4781	-1.0
京都市	86836	81149	-6.5

### 西部エリアの事業所増減率 (H13-H21 経済センサス)

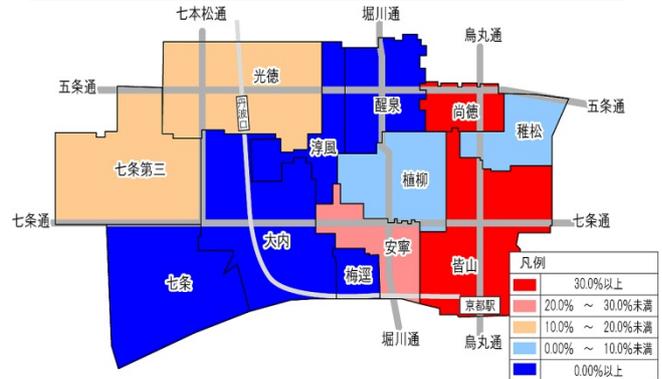


### 各区の従業者増減率 (H13-H21 経済センサス)

従業者数増減率(%)

行政区	H13(人)	H21(人)	H13-H21
北区	40541	42935	5.9
上京区	50803	48267	-5.0
左京区	66791	75388	12.9
中京区	110138	112954	2.6
東山区	35524	36180	1.8
下京区	105580	124779	18.2
南区	85547	93523	9.3
右京区	78119	79222	1.4
伏見区	100372	107986	7.6
山科区	42885	45651	6.4
西京区	35609	40057	12.5
京都市	751909	806942	7.3

### 西部エリアの従業者増減率 (H13-H21 経済センサス)

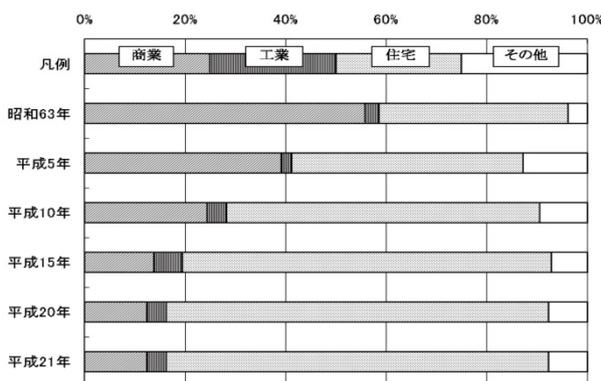


### 各区の「H15年-H20年の増減率」(H15・20 住宅・土地統計)

(単位 戸)

行政区	総数	一戸建	長屋建	共同住宅					その他
				総数	1・2階建	3~5階建	6~10階建	11階建以上	
京都市	5.2	5.7	△44.6	10.2	△14.0	7.2	25.5	27.3	△7.6
北区	2.9	4.9	△50.7	7.9	△27.2	12.1	130.2	—	△33.3
上京区	6.5	0.1	△66.5	22.3	△15.0	20.4	26.8	39.0	18.8
左京区	△2.0	6.2	△46.3	△6.2	△31.8	△3.6	30.3	—	36.8
中京区	13.3	12.7	△90.1	20.7	74.3	5.2	14.8	45.5	△75.0
東山区	△3.5	△8.4	△48.6	8.2	△3.9	△4.0	79.7	—	△55.6
山科区	15.6	11.1	58.6	19.2	28.1	11.0	19.4	48.3	25.0
下京区	6.0	2.9	△64.2	14.8	△19.3	△0.7	34.5	19.9	△27.3
南区	8.8	4.2	△44.6	18.1	△11.5	8.0	39.0	21.0	—
右京区	9.6	5.2	△37.1	26.0	△14.2	23.6	54.8	42.8	25.0
西京区	2.9	0.2	△15.7	8.2	△9.8	8.2	35.4	1.0	133.3
伏見区	1.4	9.9	△55.1	△0.6	△11.3	3.4	△11.4	14.3	114.3

### 下京区の土地利用の変遷



## (4) 空家の現状

ここでは、京都市、及び、下京区の空き家の状況を「H20 住宅・土地利用調査」から分析する。

### 1) 住宅数及び空き家率

- ①京都市：・H20 年住宅・土地統計調査によると、京都市の空き家は約 11 万戸、空き家率は 14.1% となっており、全国 (13.1%) および京都府 (13.1%) の空き家率を上回っている。
- ・S43～H20 年の空き家率の増減をみると、ほぼ右肩上がりに空き家率が増加している。  
(→S48 年以降、常に、住宅総数が世帯総数を上回る状況が続いている)
  - ・空き家の種類別にみると、H5～H20 年で、「二次的住宅、賃貸用住宅、売却用住宅」の空き家数は 1.53 倍 (平均 1.60 倍) と平均を下回るのに対して、「その他の住宅」の空き家数は 1.74 倍と平均を上回る。

#### <用語の定義>

「二次的住宅」とは別荘やセカンドハウスになっている住宅  
「賃貸用住宅」とは新築・中古を問わず、賃貸のために空き家になっている住宅  
「売却用住宅」とは新築・中古を問わず、売却のために空き家になっている住宅  
「その他の住宅」とは上記以外の人が住んでいない住宅で、例えば、転勤・入院などのため居住世帯が長期にわたって不在の住宅や建て替えなどのために取り壊すことになっている住宅など

- ②下京区：・H20 年住宅・土地統計調査によると、商業・業務系の土地利用が多い下京区では、住宅数は東山区に次いで 2 番目に少ないが、空き家数は中位に位置する。
- ・下京区の空き家率は 16.0% と、東山区、北区に次いで 3 番目に高い。

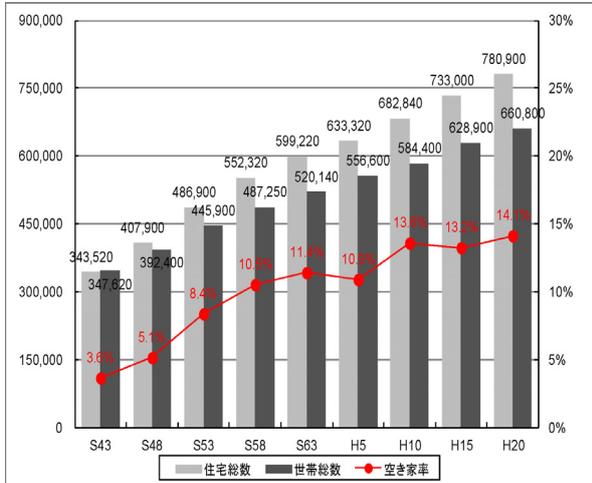
### 2) 接道状況と空き家率の関係

幅員 4 m 未満に接道する建築物は建物更新の際に制限がかかり、特に、幅員 1.8 m 未満に接道する建築物は、現行法下では再建築ができないことから、細街路に面する建築物は、相対的に空き家が多いと言われているが、京都市および下京区では、以下のような傾向がみられる。

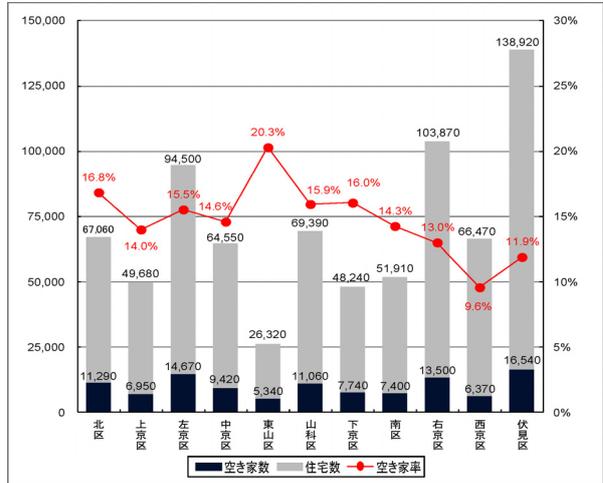
- ①京都市：・全空き家の中で、幅員 4m 未満の道路に接する空き家の割合は 35.1% と、全国平均とほぼ同等である。
- ・接道状況別の空き家率をみると、「接道がない」が 18.3% で最も高く、次いで「幅員 2m 未満」が 17.2%、「幅員 2～4m 未満」が 15.3% という順になっている。  
(→接道状況の悪い住宅ほど空き家率が高い傾向が表れている)
  - また「幅員 4～6m」が 12.4% で最も低く、「幅員 6～10m」と「幅員 10m 以上」では 15.2% とやや高くなっている。  
(→広幅員沿いには、アパート・マンション等が比較的多い点が影響していると想定される)
- ②下京区：・全空き家の中で、幅員 4m 未満の道路に接する空き家の割合は 30.0% と、西京区、南区に次いで 3 番目に低い値である。
- 一方で、幅員 6m 以上の道路に接する空き家の割合は、49.6% と、市内で最も高い数値となっている。
  - ・接道状況別の空き家率をみると、「接道がない」が 20.9% で最も高く、次いで「幅員 2m 未満」が 19.6% という順になっている。  
(→接道状況の“特に悪い”住宅では空き家率が高い傾向が表れている)
  - 一方で、「幅員 6～10m」が 17.7% で 3 番目に高く、「幅員 10m 以上」も 17.5% と 4 番目に高い値を示している。  
(→全住宅に占めるアパート・マンション等の共同住宅割合が市内で最も高い下京区では、広幅員道路沿道も空き家率が高い)

## H20.住宅・土地利用調査より

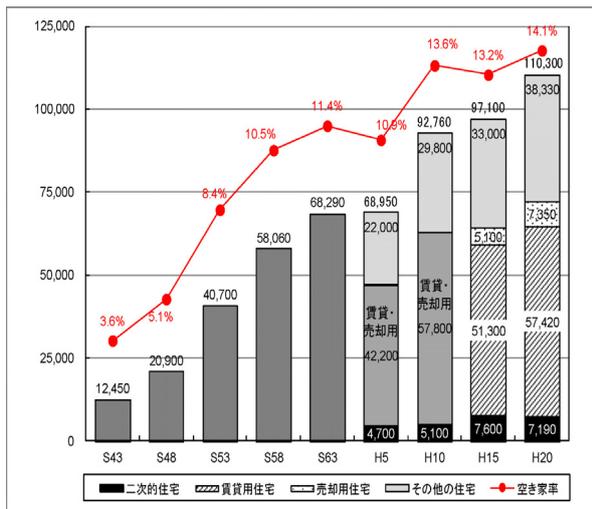
### 京都市の住宅総数・世帯総数・空き家率の推移



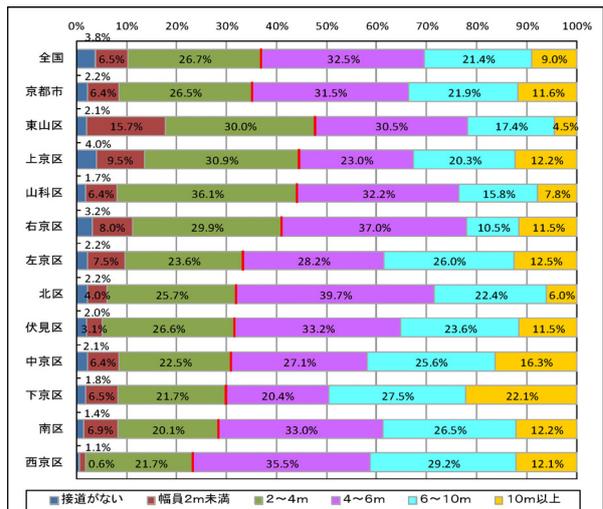
### 区別の空き家数・空き家率



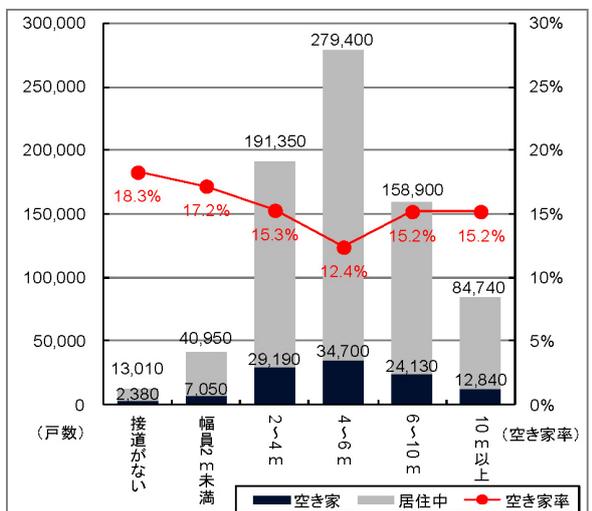
### 京都市における種類別に見た空き家数の推移



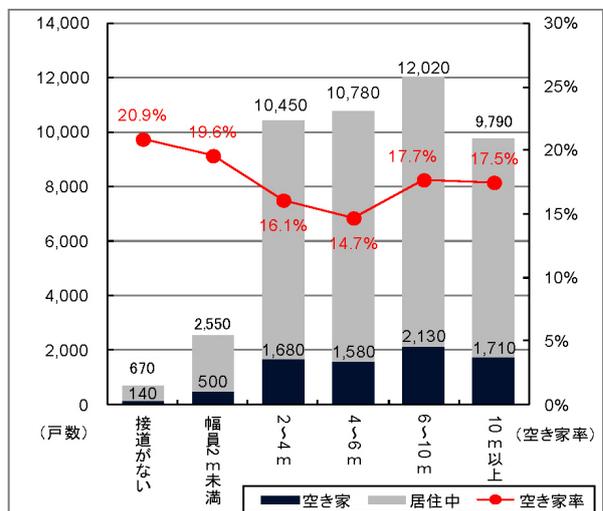
### 接道状況別に見た空家の割合



### 【京都市】接道状況別の空き家数・空き家率



### 【下京区】接道状況別の空き家数・空き家率



## 2. 下京区西部エリアの歴史・変遷の整理

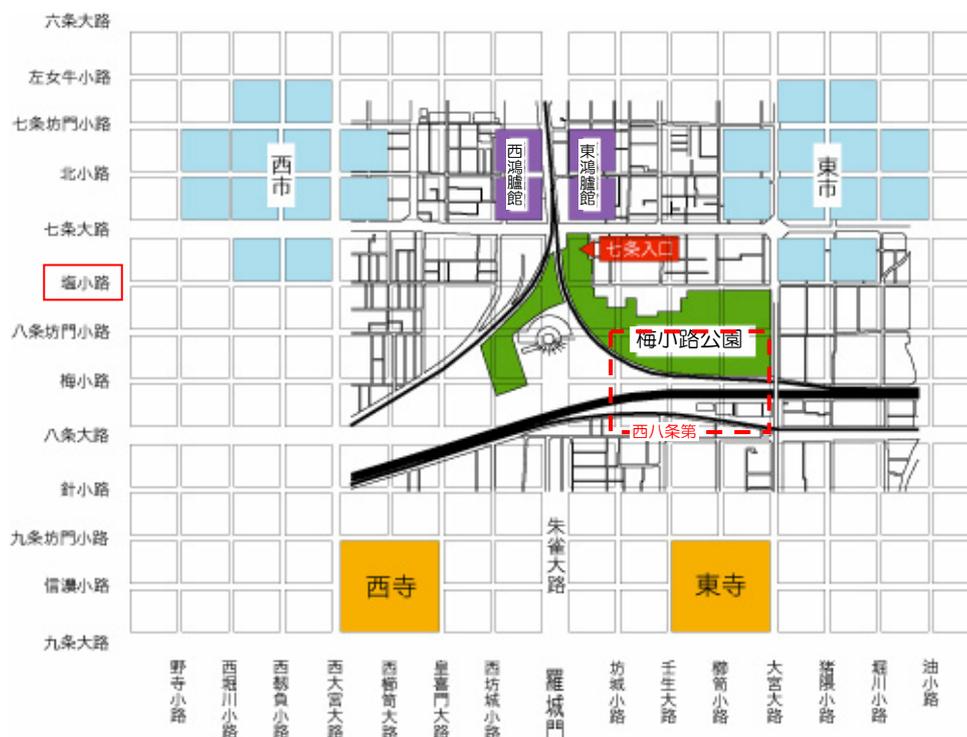
### (1) 梅小路の歴史・変遷 ~公益財団法人京都市都市緑化協会ホームページより~

#### 1) 梅小路の歴史

- ・通りとしての梅小路は、幅4丈(約12m)の小路として設けられた。名称は平安時代に溯り、「梅小路」という呼び方が一般的であったが、「梅カ小路」(むめかこうじ)と呼ばれることもあった。
- ・地名としての梅小路は、平安京域内の延喜坊に属し、境域は、東西が朱雀大路と西坊城通、南北が八条大路と塩小路に囲まれる区域であった。集落が梅小路の北にあったことによると考えられる。  
また、ここには八条大将と称された藤原保忠の伝領地があつて大将町と呼ばれていた。
- ・平安末期：平清盛をはじめとする平家一門の邸宅群として「西八条第」(にしはちじょうてい)が造営された。(下図赤点線部分の6町)(寿永2年(1183)に平氏一門自らの手で焼失)
- ・室町時代：掃部寮(かもんのりょう。宮内省の令外官)領が存在したと推察されている。
- ・江戸時代：山城国葛野郡梅小路村となり、石高は江戸時代を通じて347石。「京雀」、「都名所車」などの江戸の地誌類では、梅小路通について、田畑のみで家はないと記されている。
- ・明治元年：京都府葛野郡梅小路村(かどのぐん・うめこうじむら)となり、「京都府地誌」によると、当時は、戸数28、人口138、田15町7反余、畑1町1反余、物産は芋・葉藍・菜種、神社に稻荷社・稻生社、寺に宝蔵寺・梅林寺、畑地は「菜蔬適ス」、水田は「地力薄シ」と記されている。
- ・その後：明治22年に京都府七条村字梅小路となり、1918(大正7)年に京都市下京区に編入され、下京区梅小路日影町・石橋町・中町・頭町の4町となった。  
さらに、昭和35年には、梅小路4町と周辺の町名や町域が再編され、現在に至る。

#### 2) 鴻臚館(こうろかん)について

- ・鴻臚館(こうろかん)とは、外交使節の接遇のために設けられた、現代でいえば迎賓館に当たる施設で、九州(大宰府)、大阪(難波)、京都の3ヶ所にあつた。
- ・京都には東西2つの鴻臚館があり、朱雀大路を挟んで右京・左京の七条一坊三町・四町にそれぞれ設けられたと考えられている。(創立年代ははっきりしないが、史料では弘仁元年(810)が最も古い記録)
- ・当時朝廷が受け入れた外交使節は渤海国のみであり、2つの外交使節を接遇する必要がないため、東鴻臚館は承和6年(839)に廃止された。また、延長4年(926)に渤海国が減ぶと、鴻臚館の必要性はなくなったため、西鴻臚館もその後廃止されたと考えられている。



## (2) 主な資源の歴史・変遷

ここでは、下京区西部エリア内の主要な資源（梅小路駅、中央卸売市場、KRP、東本願寺、西本願寺、東寺、龍谷大学、島原周辺）に着目し、それぞれの土地の歴史的経緯を整理する。

### 1) 梅小路公園

明治9年(1876年)	梅小路駅が、三哲通（さんてつどおり）西洞院（にしのとういん）東に開設される。現在、日本貨物鉄道（JR貨物）の貨物駅
昭和47年(1972年)10月	国鉄により日本の鉄道開業100周年を記念して梅小路機関区を活用して蒸気機関車館が開設
平成6年(1994年)9月	第11回全国都市緑化フェアが、現在の梅小路公園にて開催される。2か月間限定で、京都-丹波口駅間に臨時駅「緑化フェア梅小路駅」が設置される。
平成7年(1995年)4月	国鉄清算事業団所有の梅小路貨物跡地11.6haに、災害時の広域避難場所としての機能も合わせ持ち、多目的な利用が期待できるとして梅小路公園が開園
平成24年(2012年)3月	芝生広場北側に京都水族館が開業
平成26年(2014年)1月	梅小路公園内に「朱雀ゆめ広場」が全面開園予定
平成28年(2016年)春	「ふれあい広場」・「おもいやり広場」付近に鉄道博物館が開業予定

### 2) 中央卸売市場

大正14年(1925年)12月	中央卸売市場竣工
昭和2年(1928年)11月	開市(鮮魚部、塩干魚部、乾物部)、翌年1月青果部開市
昭和16年(1941年)	第2次世界大戦下における非常事態の統制令により、市場機能が停止
昭和25年(1950年)4月	統制令の解除により、市場機能の復活
平成12年(1998年)	丹波口駅土地区画整理事業に伴う減歩に対応するため、五条駐車場の立体化を実施
平成16年(2002年)	市場近隣の大京冷蔵庫跡地を取得、市場設備整備のローリング用地として活用予定
平成19年(2007年)3月	マスタープラン策定 ・安心・安全な市場⇒市場の耐震化等 ・強い市場⇒京の食文化発信拠点として情報発信 ・愛される市場⇒「すし棟」「京の食文化普及啓発施設の整備」、広域回遊ルートを想定しての施設整備
平成24年(2012年)8月	中央卸売市場内に、すし棟「京・朱雀すし市場」開業
平成25年(2013年)4月	京の食文化普及啓発施設の整備として、「京の食文化ミュージアム・あじわい館」開設

### 3) 京都市リサーチパーク (KRP)

昭和53年(1978)	昭和3年(1928)に操業開始した大阪ガス京都工場が一部を残して操業終了
昭和57年(1982)	6.5haの巨大遊休地を活用するためのプロジェクト発足
平成元年(1989)	京都府、京都市、地元産業界との協力・連携のもと、創造的な研究開発環境、各種サービスの提供を通じて、新たな分野を切り開く企業を支援し、地域の産業発展・活性化に寄与することを目的に、全国初の民間運営によるリサーチパークとしてオープン（東地区）
平成4年(1992)	ガスビル完成（西地区）。その後、西地区においては平成18年(2006)にかけて3号館～8号館を建設
平成22年(2010)	KRP9号館と京都市産業技術研究所の複合棟がオープン

---

---

#### 4) 東本願寺、西本願寺

文永9年(1272)	真宗大谷派の宗祖である親鸞聖人の門弟らが、宗祖の遺骨を大谷（京都市東山山麓）から吉水（京都市円山公園付近）の北に移し、廟堂を建て宗祖の影像を安置したことが起源(大谷廟堂)
元亨元年(1321)	「本願寺」の寺号を公称する
寛正6年(1465)	京都東山にあった大谷本願寺は比叡山との関係により一時退転
文明12年(1478)	蓮如上人の北陸布教の時代を経て、山科に再興
天文元年(1532)	山科本願寺焼失し、大坂（石山：現在の大阪市中央区）へと移転
元龜元年(1570)	顕如上人の時代に、織田信長との戦い（石山合戦）に敗れ大坂も退去し、紀州(和歌山)、和泉(貝塚)に移転
天正13年(1585)	豊臣秀吉により大坂天満に再興
天正19年(1591)	京都堀川七条に本願寺（現在の西本願寺：浄土真宗本願寺派の本山）が移転
慶長7年(1602)	京都烏丸六条・七条間の地を徳川家康から寄進
慶長8年(1603)	京都烏丸六条・七条間に阿弥陀堂建立、翌年に御影堂を建立、新たな本願寺を創立（現在の東本願寺:浄土真宗大谷派の本山）により、本願寺を分立し教団も2分化
寛永16年(1639)	西本願寺境内に、学寮（現・龍谷大学）落成
明治28年(1895)	東本願寺、再建(現在の堂が建立)
平成11年(1999)	西本願寺、御影堂修復工事が始まる
平成21年(2009)	西本願寺 御影堂修復工事完了
平成15年～(2003)	東本願寺は、100余年の経年による損傷から、修復工事が始まる

#### 5) 東寺

延暦15年(796)	国家鎮護の寺院として羅城門の東に創建
弘仁14年(823)	嵯峨天皇から真言宗宗祖の空海（弘法大師）に東寺を給預
鎌倉時代	弘法大師信仰の高まりとともに「お大師様の寺」として皇族から、庶民まで広く信仰を集める
応仁元年(1467)	以後約10年間にわたって継続する応仁の乱の戦禍を免れる
文明18年(1486)	文明の土一揆で、金堂、講堂、廻廊や南大門などを焼失
桃山時代	焼失した金堂が約100年ぶりに再建、続いて南大門も完成し、焼失後すぐに再建した講堂も含めて、東寺はほぼ元通りの姿になる
昭和40年(1965)	秘仏公開。固く閉ざしていた金堂・講堂の扉がひらく
現代	東寺には創建当時の建物は残っていないが、「古都京都の文化財」として、「世界遺産条約」に基づく世界文化遺産に登録された（平成6年12月）

---

---

## 6) 龍谷大学

寛永 16 年(1639)	京都西本願寺境内に学寮竣工
明暦元年(1655)	幕府の命により学寮を破却、以後、学林で講義を行う
明治 9 年(1876)	学林を大教校と改称し、全国 7 カ所に中教校、各県に小教校を設置
明治 12 年(1879)	大教校落成（現・大宮学舎本館・南覺・北覺・正門）現在の宮学舎の本館と南北教室棟は、当時の講堂及び寄宿舎であり、西洋の修道院建築に範を求めたともいわれている。本館・南北覺・旧守衛所・正門は初期西洋建築の貴重な建築物として国の重要文化財に指定されている
明治 21 年(1888)	大学林に改称
明治 33 年(1900)	学制を更新し、仏教大学・仏教高等中学・仏教中学の 3 種とする
大正 11 年(1922)	大学令による大学となる。龍谷大学と改称
昭和 35 年(1960)	深草学舎を開設
昭和 39 年(1964)	大宮学舎本館・正門等が重要文化財に指定される
昭和 54 年(1979)	紫英館（研究・事務棟）竣工
平成元年(1989)	瀬田学舎開学。創立 350 周年記念式典
平成 3 年(1991)	瀬田学舎・龍谷エクステンションセンター（REC）を設置
平成 23 年(2011)	龍谷ミュージアム開設（西本願寺東向かい）

## 7) 島原周辺

天正 17 年(1589)	島原の花街（歌舞音曲の遊宴の町）は、豊臣秀吉の許しを得て、柳馬場二条に「柳町」として開設された。
慶長 7 年(1602)	御所に近いという理由で六条柳町（東本願寺の北側付近）に移転させられる。この地は、通称「六条三筋町」と呼ばれ大いに繁盛した。
寛永 18 年(1641)	町中では風紀を乱すと理由で、辺鄙な朱雀野（現在の島原）に移転を命じられる。「西新屋敷」が正式地名であるが、その移転騒動が当時の九州島原の乱に似ているとして、「島原」と通称されてきた。
天明 7 年(1787)	角屋（揚屋建築唯一の遺構・国指定重要文化財）は島原開設当初から存在するが、増改築後に現在の規模となる。
明治維新以後	大型宴会の需要がなくなるとともに、足場の悪さもあって、島原の町全体が衰微した。それ以降は祇園が花街の主役に取って代わっていった。



## 第2章. エリア内の施設等への来街者に対する 行動・利用状況等についてのアンケート調査

---

1. アンケート実施概要……………11
2. アンケート集計結果……………14



# 1. アンケート実施概要

## (1) 実施概要

### 1) 街頭アンケートについて

- ・日 時 : 11月8日(金)・11月9日(土)の2日間  
いずれも 10:00~16:00(休憩12:00~13:00)
- ・調査場所 : 11月8日(金)は、以下の5か所
  - A. 京都水族館前                      B. 梅小路公園(芝生広場)                      C. 蒸気機関車館前
  - D. 東本願寺境内                      E. ー    F. 七条通商店街(市場前)
- ・調査場所 : 11月9日(土)は、以下の6か所
  - A. 京都水族館前                      B. 梅小路公園(芝生広場)                      C. 蒸気機関車館前
  - D. 東本願寺境内                      E. 龍谷ミュージアム前                      F. 七条通商店街(市場前)

### 2) 留置きアンケートについて

- ・日 時 : 11月1日(金)・11月15日(金)の15日間
- ・設置場所 : 以下の6か所
  - イ. 京都水族館                      ロ. 蒸気機関車館                      ハ. 龍谷ミュージアム
  - 二. 角屋もてなしの文化美術館                      ホ. あじわい館                      ヘ. 京都リサーチパーク



## (2) 集票結果

施設名	街頭		留置き	合計(票)
	8日(金)	9日(土)	1日~15日	
京都水族館	73票	79票	7票	159票
梅小路公園	97票	112票	一票	209票
蒸気機関車館	22票	53票	30票	105票
東本願寺	50票	56票	一票	106票
龍谷ミュージアム	一票	32票	58票	90票
七条通商店街	35票	30票	一票	65票
角屋もてなしの文化美術館	一票	一票	31票	31票
あじわい館	一票	一票	30票	30票
京都リサーチパーク	一票	一票	13票	13票
合計	277票	362票	169票	808票

### (3) アンケート調査票

・2013年11月8日(金) / ・11月9日(土)

#### 「下京区西部エリアの来訪者アンケート」調査票

現在、京都市では、梅小路公園をはじめ、京都リサーチパーク、中央卸売市場第一市場、商店街、文化・観光施設、大学などが集積し、多彩な魅力を有する「下京区西部エリア」の更なる活性化を目指して「下京区西部エリアの将来構想」策定に向けた検討を行っています。  
本調査は、将来構想を検討していくための基本情報として、来訪者の方々の行動・御意見を伺いするものです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。  
京都市

#### ◇ 調査場所【調査員記入】

A. 京都水族館・館内	B. 梅小路公園	C. 蒸気機関車館	D. 東本願寺	E. 龍谷ミュージアム	F. 七条通商店街
A. 京都水族館・前	芝生広場				

#### ◆ 問1. 当施設・場所への来訪目的は何ですか？(該当する番号ひとつに○をつけてください)

1. 観光	2. 買物	3. 拝観	4. 芸術鑑賞
5. デート	6. 散策	7. スポーツ	8. 仕事
9. 祭事・催しへの参加	10. 集会・発表会	11. 遊び・レクリエーション	12. 学習・調査
13. その他( )			

#### ◆ 問2-1. 当施設・場所を訪れる“前に”訪問した施設・場所はどちらですか？

(該当する番号すべてに○をつけてください)

1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ディリパ
17. 京都駅ビル	18. 特になし	19. その他(具体的に )	

#### ◆ 問2-2. その際、当施設・場所までは、どのような交通手段を利用されましたか？

(該当する番号すべてに○をつけてください)

1. JR(在来線)	2. 私鉄(京阪・阪急など)	3. 地下鉄
4. 路線バス	5. タクシー	6. 貸し切りバス
7. 自家用車・バイク	8. 自転車	9. 徒歩
10. 新幹線	11. 飛行機	12. 船

#### ◆ 問3-1. 当施設・場所を訪れた“後に”訪問する場所・施設はどちらですか？

(該当する番号すべてに○をつけてください)

1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ディリパ
17. 京都駅ビル	18. 特になし	19. その他(具体的に )	

#### ◆ 問3-2. その際、当施設・場所からは、どのような交通手段を利用される予定ですか？

(該当する番号すべてに○をつけてください)

1. JR(在来線)	2. 私鉄(京阪・阪急など)	3. 地下鉄
4. 路線バス	5. タクシー	6. 貸し切りバス
7. 自家用車・バイク	8. 自転車	9. 徒歩
10. 新幹線	11. 飛行機	12. 船

裏面へお進みください。

◆ 問4. ご存じの施設・場所はありますか？（該当する番号すべてに○をつけてください）

1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ティリパ

◆ 問5. 当エリアにはどのような施設・サービスがあれば良いと思いますか。  
（該当する番号すべてに○をつけてください。）

1. 休憩所・交流スペース（カフェ、ベンチ等）	2. 飲食施設・サービス（レストラン等）
3. 商業施設（お土産屋、衣料・雑貨店等）	4. 宿泊ができる施設・機能（ホテル・旅館等）
5. 公園スペース（芝生広場、オープンスペース等）	6. お祭り・イベントができる広場空間・サービス（屋外ステージ、イベント等）
7. 情報施設や案内サービス（観光案内所、サイン等）	8. 施設間を快適に周遊できる散策路やサービス（遊歩道、ループバス、レンタサイクル等）
9. その他 （具体的に	）

◆ 問6. 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。  
（該当する番号ひとつに○をつけてください。）

(1) 性別

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(2) 年代

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳以上

(3) お住まい

1. 京都市内	2. 京都府内（京都市除く）	3. 滋賀県	4. 大阪府
5. 兵庫県	6. 奈良県	7. 和歌山県	8. 北海道
9. 東北	10. 関東	11. 中部・北陸	12. 中国・四国
13. 九州・沖縄	14. 日本国外（国名	）	

(4) ご予定について

1. 日帰り	2. 1泊2日	3. 2泊以上
--------	---------	---------

(5) 同行者について

1. なし	2. 友人・知人・恋人	3. 家族・親戚	4. 団体
-------	-------------	----------	-------

(6) 当エリアへの来訪頻度について

1. はじめて	2. 2~4回	3. 5~9回	4. 10回以上
---------	---------	---------	----------

**ご協力ありがとうございました。**

京都市総合企画局市民協働政策推進室  
 特定非営利活動法人 京都・地球みらい機構  
 （下京区西部エリアに関する基礎調査業務受託業者）

電話：075-222-4178  
 電話：075-341-6161

## 2. アンケート集計結果

### 集計結果の概要

ここでは、次頁以降に整理する各設問へのアンケート結果を受けて、その概要（傾向と特徴）を整理する。（なお、梅小路公園+京都水族館+蒸気機関車館を「梅小路公園周辺の施設」と書く）

#### 1) 下京区西部エリアへの来訪目的

- 傾向：・「観光」目的が最も多く、37.0%と、全体の1/3以上を占める。  
・「散策」、「遊び・レクリエーション」も比較的多く、10%を超える数値を示している。  
⇒（これは、梅小路公園の集票数が多かった影響が強いと推測される）
- 特徴：・「学習・調査」が7.9%と比較的多いことから、観光とともに“学びの場”としての特徴を有しているエリアであるといえる。  
・また、「拝観」も6.4%と比較的多いことから、東本願寺・西本願寺が核となっているエリアである点も伺える。  
・一方で、七条商店街、島原商店街を内包しているエリアであるが、「買物」目的の来訪者は1%に満たない割合である。

#### 2) 直前・直後の来訪場所 ～どこから来て、どこへ訪れる予定か～

- 傾向：・『「自宅・宿泊先」から直接来て、「自宅・宿泊先」へ帰る』という答えが特に多い。  
・「梅小路公園周辺の施設」「東本願寺、西本願寺、東寺」「京都駅ビル」「中央卸売市場」といった大規模施設以外からの来訪者は全体の1%に満たない数値となっている。
- 特徴：・上記の通り、「目的施設1箇所にのみ訪れ、その前後でエリア内の他の施設を回遊しない」傾向が強いことがうかがえる。  
・一方、「梅小路公園周辺の大規模集客施設間を回遊する」「東本願寺、西本願寺、東寺、龍谷ミュージアム、角屋といった歴史的施設間を回遊する」といったように、同様なグループ内での回遊も比較的多いことが見受けられる。

#### 3) 直前・直後の来訪手段 ～どのような手段で来て、どのような手段で次へ訪れるのか～

- 傾向：・『約3割の人が「徒歩のみ」で来て、約4.5割の人が「徒歩のみ」で帰る』というように、徒歩のみでの移動が最も多い。  
・次いで「自家用車・バイク（来る17.1%、行く12.9%）」「路線バス（来る9.3%、行く10.1%）」「JR在来線（来る9.3%、行く6.1%）」が多い。
- 特徴：・全体的に「自家用車・バイク」「路線バス」といった自動車利用が比較的多い一方で、「私鉄」「地下鉄」など鉄道利用は比較的小さい。  
・梅小路公園では「自転車（来る21.1%、行く18.2%）」が特に高く、地元利用が多いことが伺える一方で、京都水族館では「貸切バス（来る25.2%、行く21.7%）」が特に多く、遠方よりの来訪者も多いことが伺える。

#### 4) 各施設の知名度 ～来訪者にどの程度知られているか～

- 傾向：・「東寺」「東本願寺」「西本願寺」の知名度は9割以上と高い。  
・次いで「京都水族館（88.3%）」「梅小路公園（77.5%）」「蒸気機関車館（74.9%）」など、梅小路公園周辺の施設が多い。
- 特徴：・寺社や大規模集客施設など、観光地の知名度が高い（⇨観光目的の来訪者が多い）  
・概して、「京都水族館」「東本願寺」「西本願寺」など、知名度の高い施設におけるアンケート結果では、知名度の高い施設（寺社+梅小路周辺）と、知名度の低い施設との差が大きい。（⇨観光客には知られていない施設も多い）

---

---

## 5) 充実が望まれる施設・サービス

傾向：・「休憩所、カフェ、ベンチ等」が27.6%と最も高く、全体の1/4以上を占める。

- ・「飲食施設、レストラン等」も20.2%と高い割合を示している。
- ・一方で、「ホテル・旅館等の宿泊施設」を望む声は比較的少なかった。

特徴：・全体的に、「休憩所、カフェ、ベンチ等」「飲食施設、レストラン等」を望む声は共通しているが、梅小路公園周辺の施設では「遊歩道、ループバス、レンタサイクル」など施設間の周遊サービスなどを望む声が高い。

- ・また、東本願寺や角屋などの歴史的施設では、「観光案内所、案内看板等」の充実を望む声が高い。

## 6) 来訪者の属性

### ① 性別・年代

傾向：・性別は、概ね男女半々。

- ・「30代」の来訪者が22.5%と最も多く、全体の1/3を占める。次いで「20代(15.7%)」「60代(15.6%)」となっている。

特徴：・梅小路公園周辺の施設は比較的女性の来訪者が多い。(⇒子ども連れ的女性が多い)

- ・梅小路公園周辺の施設は、30代以下の比較的若い層が半数以上を占めている。一方で、東本願寺や角屋などの歴史的施設には、50代以上の熟年層が多いことが伺える。

### ② 居住地

傾向：・「京都市内」が38.7%と最も多い。次いで大阪府の12.6%となっている。

- ・「関東(10.3%)」「北陸(8.3%)」からの来訪者も比較的多い。

特徴：・「東本願寺」は関東や中部北陸といった遠方からの来訪者が多い。

- ・「京都水族館」や「蒸気機関車館」は、大阪など近県からの来訪者が比較的多い。
- ・知名度の低い施設は、京都市内からの来訪者が大半を占める。

### ③ 予定

傾向：・「日帰り」が76.8%と最も多い。次いで「2泊以上(11.8%)」「1泊2日(11.2%)」が同程度の割合となっている。

特徴：・「東本願寺」を除く全ての施設で「日帰り」が70%以上を占めている。

- ・「梅小路公園」「あじわい館」「KRP」などの観光目的が低い施設では、9割以上が日帰り。

### ④ 同行者

傾向：・「家族・親戚」が36.0%と最も多い。次いで「友人・知人・恋人(27.4%)」「なし(一人)(23.6%)」となっている。

特徴：・「梅小路公園周辺の施設」「東本願寺」は「家族・親戚」が特に多い割合を占めている。

- ・一方、「あじわい館」「KRP」「七条通商店街」などは、「一人」で来ている割合が多い。

### ⑤ 来訪頻度

傾向：・「はじめて(1回目)」が37.0%と最も多い。次いで「10回以上(31.9%)」「2~4回(22.6%)」となっている。

特徴：・地元利用の多い「梅小路公園」「七条通商店街」、仕事・教室利用の多い「KRP」「あじわい館」などは、「10回以上」の来訪者が特に多い。

- ・一方、「京都水族館」「蒸気機関車館」などは、「はじめて」の来訪者が多い。

## (1) 『来訪目的』について

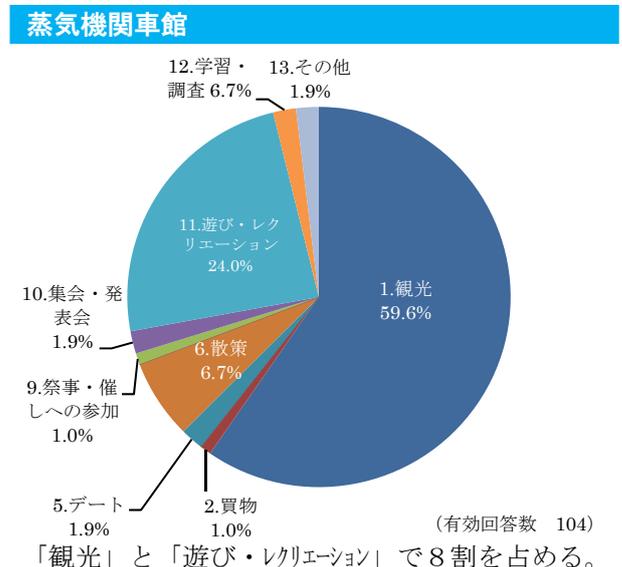
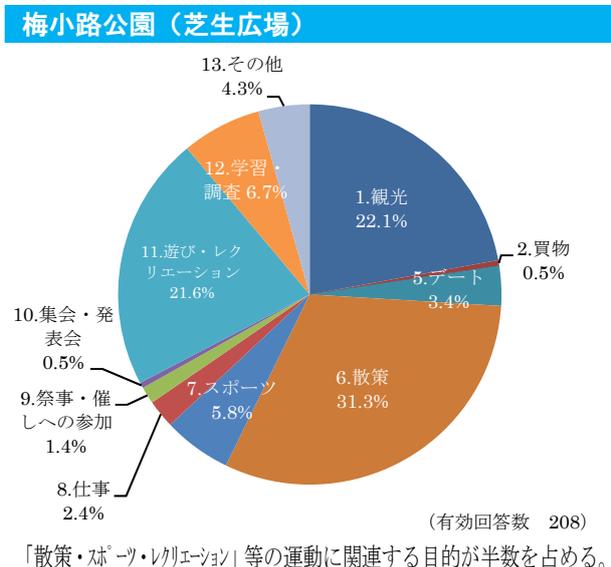
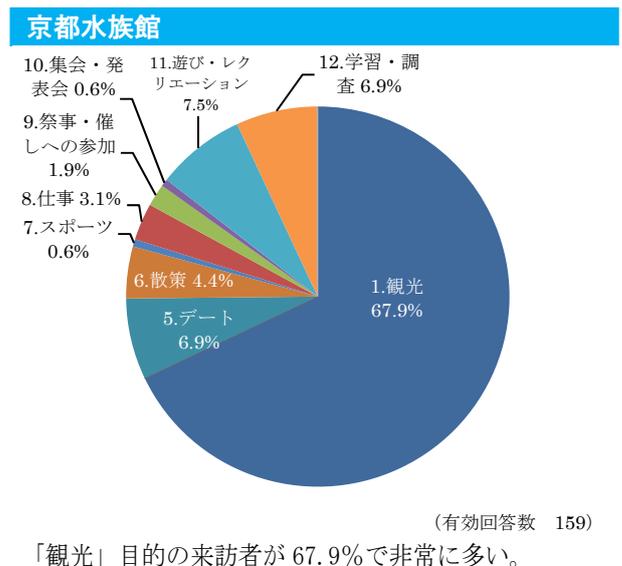
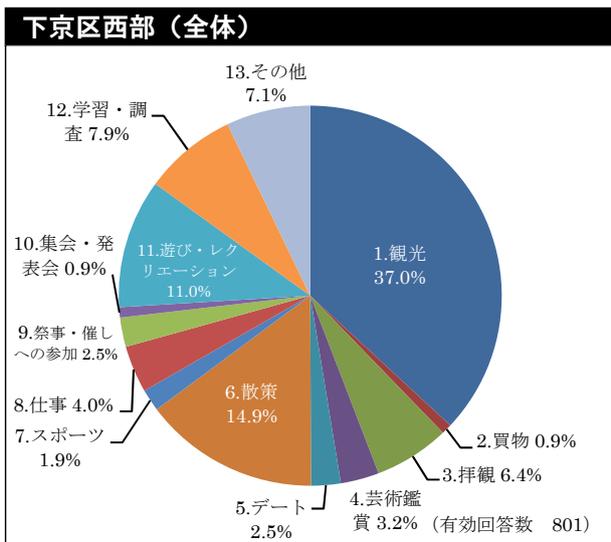
### 1) 質問内容

◆ 問1. 当施設・場所への来訪目的は何ですか？（該当する番号ひとつに○をつけてください）

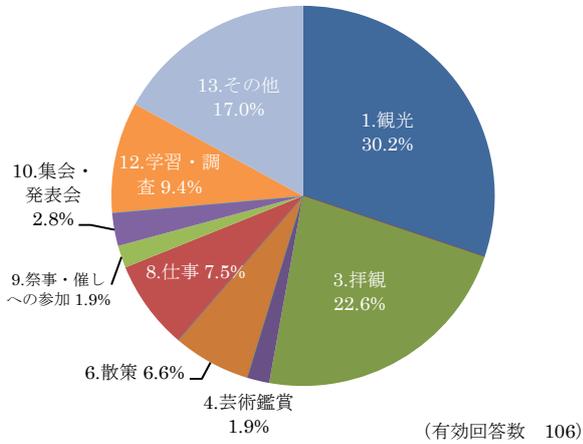
1. 観光	2. 買物	3. 拝観	4. 芸術鑑賞
5. デート	6. 散策	7. スポーツ	8. 仕事
9. 祭事・催しへの参加	10. 集会・発表会	11. 遊び・レクリエーション	12. 学習・調査
13. その他（			

### 2) 集計結果概要（下京区西部全体）

- ・最も多いのは、「観光」で37.0%。
- ・比較的に多いのは「散策」14.9%「遊び・レクリエーション」11.0%だが、共に「京都水族館」「梅小路公園」「蒸気機関車館」の梅小路周辺施設の集票結果がほとんどである。
- ・最も少ないのは、「買い物」、「集会・発表会」で両者とも1%にも満たない。
- ・4割を占める「観光」以外の来訪目的は、どれも1割程度もしくは、それ未満である。

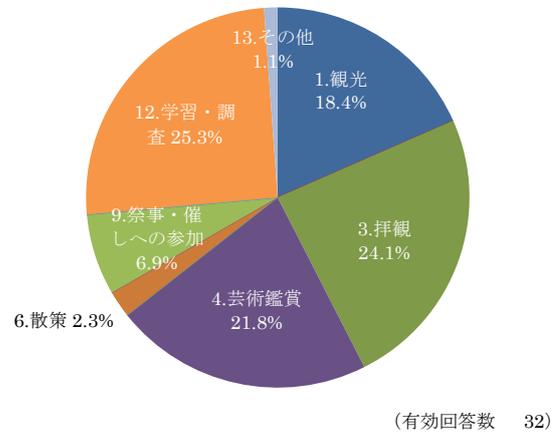


### 東本願寺



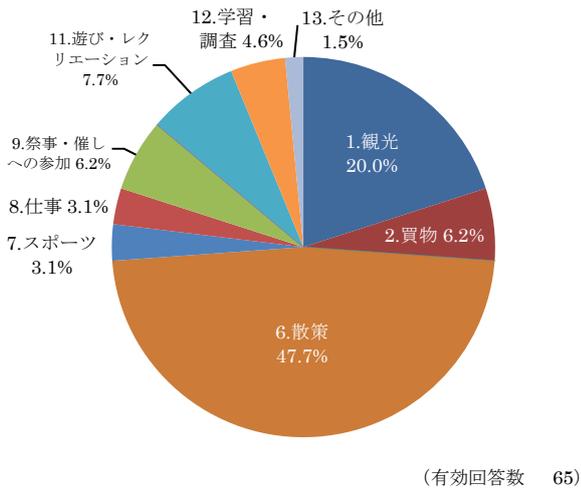
「その他」が比較的多い、内訳としては納骨がほとんどである。

### 龍谷ミュージアム



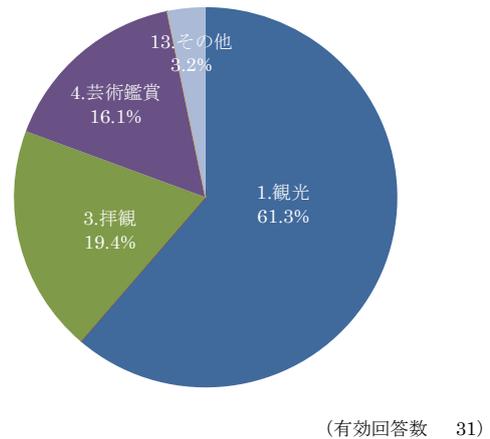
「鑑賞」の目的以外に、「学習」も比較的多い。

### 七条通商店街



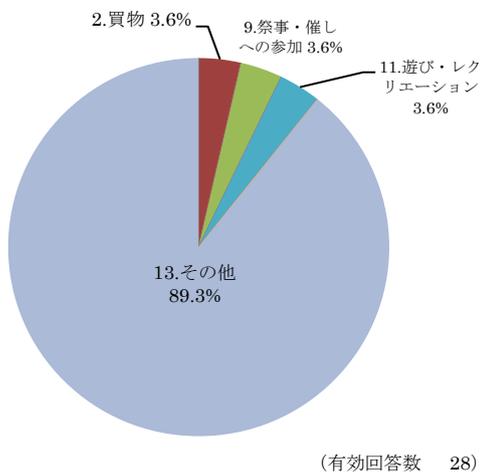
実施場所が商店街だが「買物」目的が少ない。

### 角屋もてなしの文化美術館



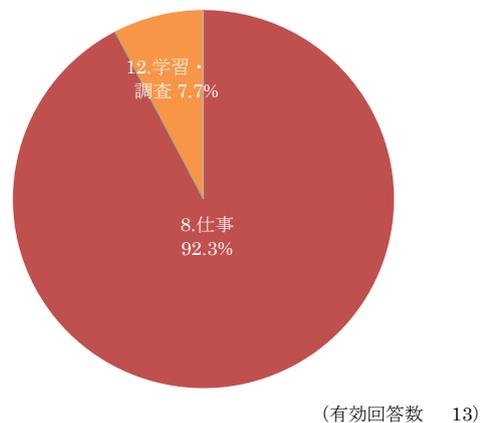
「観光」「拝観」目的がほとんどである。

### あじわい館



「その他」が9割を占める、内訳は全て料理教室である。

### 京都リサーチパーク



「仕事」目的がほとんどである。

## (2-1) 『直前の来訪場所』について

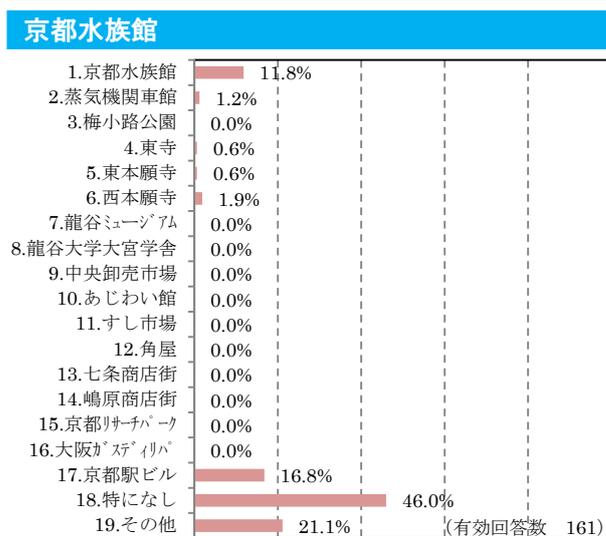
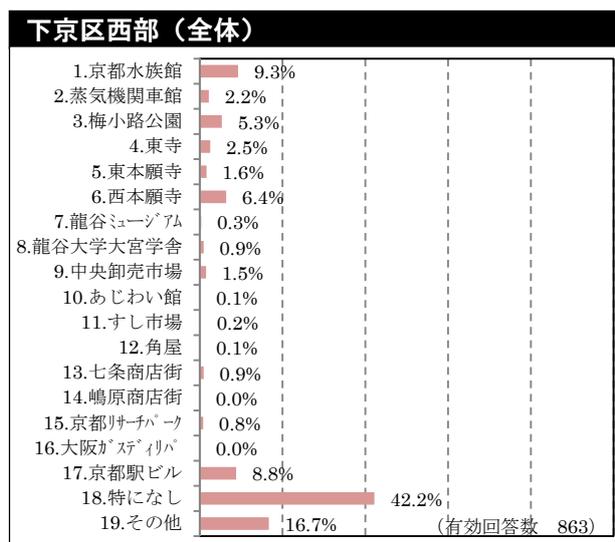
### 1) 質問内容

- ◆ 問2-1. 当施設・場所を訪れる“前に”訪問した施設・場所はどちらですか？  
(該当する番号すべてに○をつけてください)

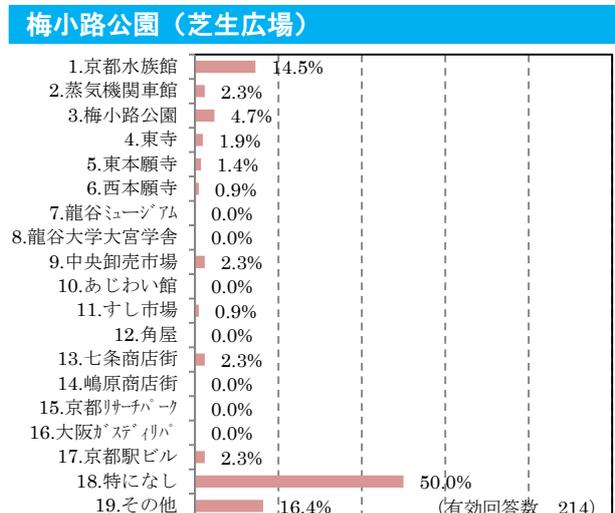
1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ディリパ
17. 京都駅ビル	18. 特になし	19. その他(具体的に )	

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

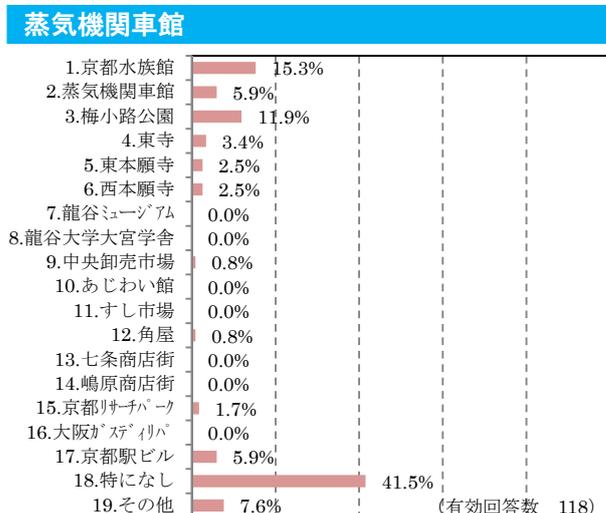
- ・最も多いのは、「特になし」で42.2%。(※「特になし」は自宅・宿泊先を含む)
- ・比較的多いのが、「京都水族館」「梅小路公園」「西本願寺」などの大規模集客施設。「その他」も多く16.7%。(※「その他」は、下京区西部エリア以外の施設を指す)
- ・小規模集客施設は、各所とも0~1%未満程しかない。
- ・京都駅ビルから遠方になるほど数値が低く、特にJR丹波口駅周辺の施設は来訪者が少ない。



「京都駅ビル」「その他」が多い、寺社からも僅かながら来訪者がある。

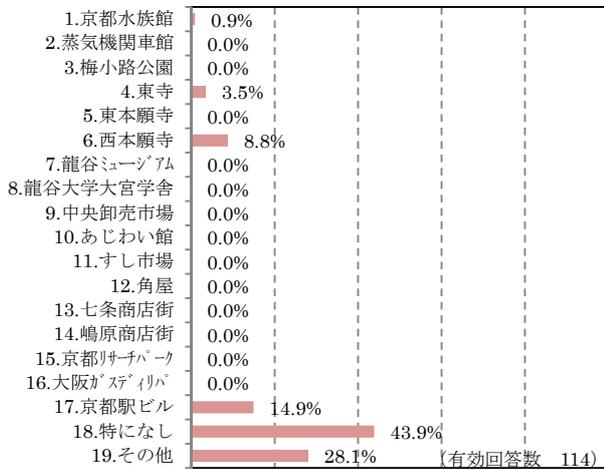


「京都水族館」14.5% 「その他」16.4%が比較的多い。



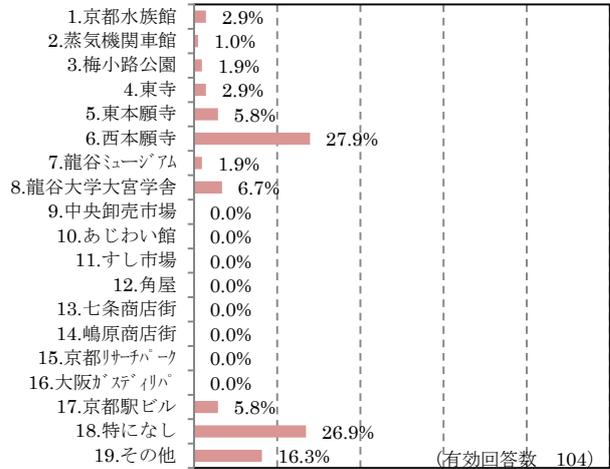
「京都水族館」15.3% 「梅小路公園」11.9%が比較的多い。

### 東本願寺



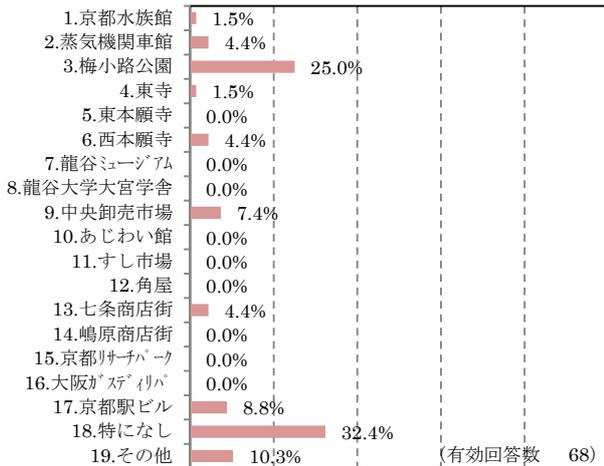
「京都駅ビル」「その他」、他の寺社からの来訪者がほとんど。

### 龍谷ミュージアム



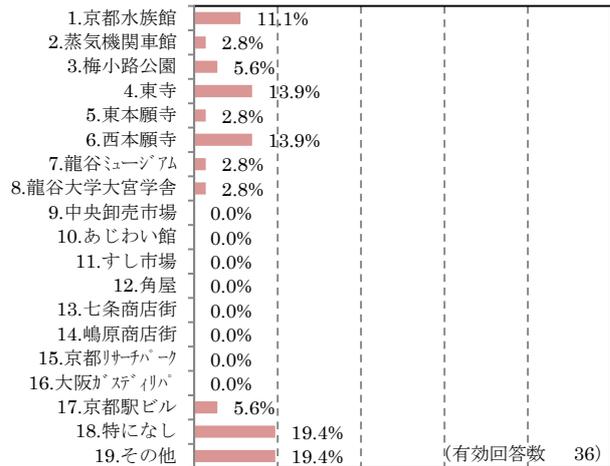
「西本願寺」からの来訪者が27.9%と非常に多い。

### 七条通商店街



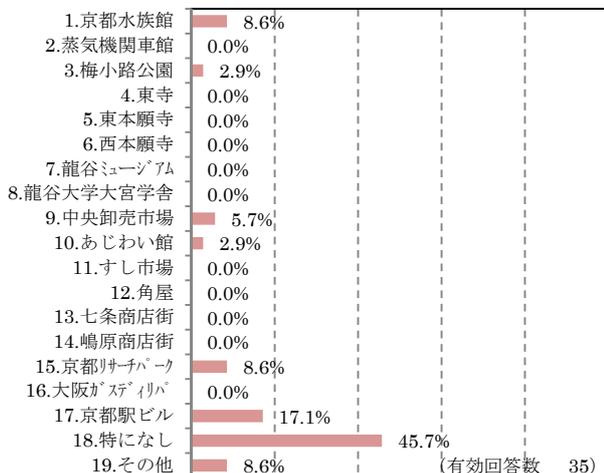
「梅小路公園」からの来訪者が25.0%と多い。

### 角屋もてなしの文化美術館



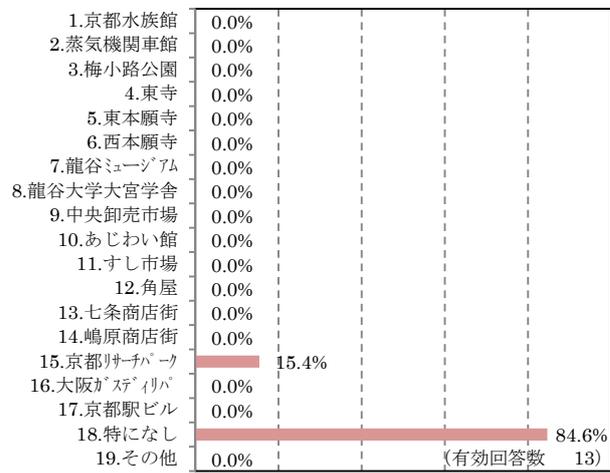
寺社からの来訪者が比較的多く、合計すると30.6%ある。

### あじわい館



「京都駅ビル」からの来訪者が17.1%と多い。

### 京都リサーチパーク



下京区西部エリアの施設からは来ていない。

## (2-2) 『直前の来訪場所からの交通手段』について

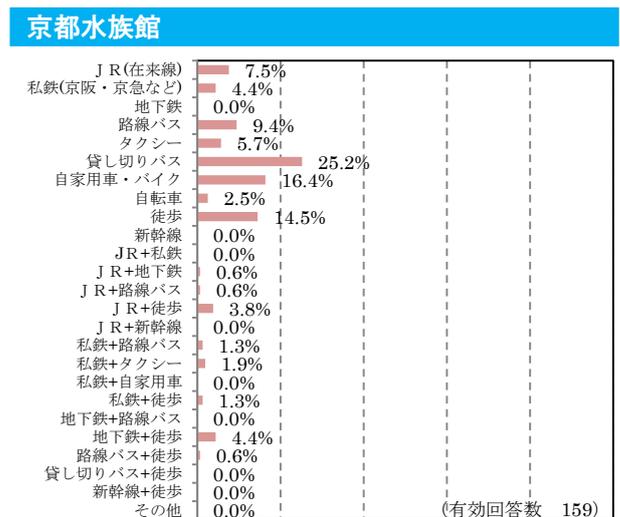
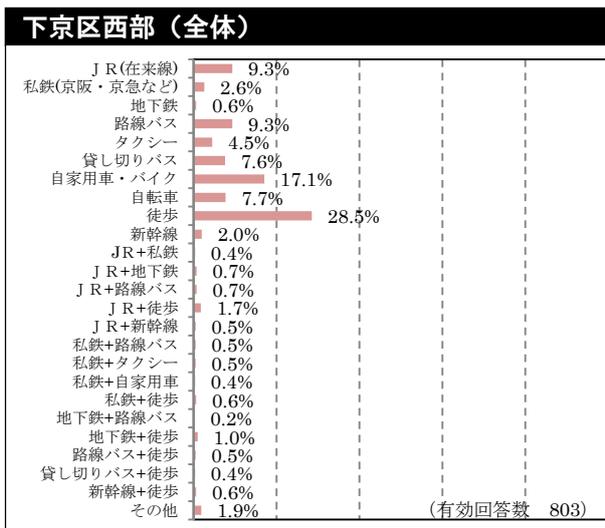
### 1) 質問内容

- ◆ 問2-2. その際、当施設・場所までは、どの様な交通手段を利用されましたか？  
(該当する番号すべてに○をつけてください)

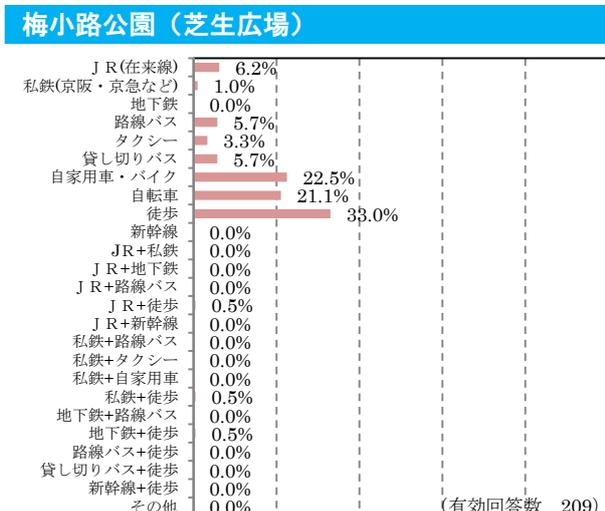
1. JR（在来線）	2. 私鉄（京阪・阪急など）	3. 地下鉄
4. 路線バス	5. タクシー	6. 貸し切りバス
7. 自家用車・バイク	8. 自転車	9. 徒歩
10. 新幹線	11. 飛行機	12. 船

### 2) 集計結果概要（下京区西部全体）

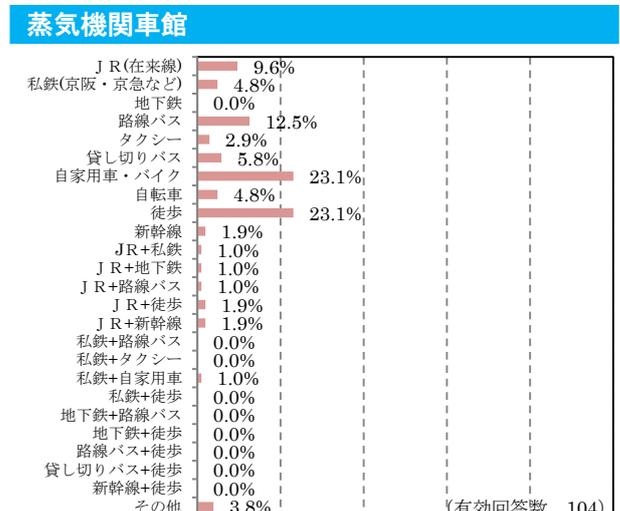
- ・最も多いのは「徒歩」28.5%。
- ・比較的多いのは、「自家用車・バイク」17.1%。次いで「JR」「路線バス」9.3%となっている。「貸し切りバス」の利用も7.6%と多い。
- ・比較的小さいのは、JR以外の鉄道路線「私鉄」2.6%「地下鉄」2.6%となっている。
- ・公共交通利用が少なく「徒歩」「自家用車・バイク」「自転車」を合わせると5割を占める。



「貸し切りバス」での来訪が25.2%と最も多い。

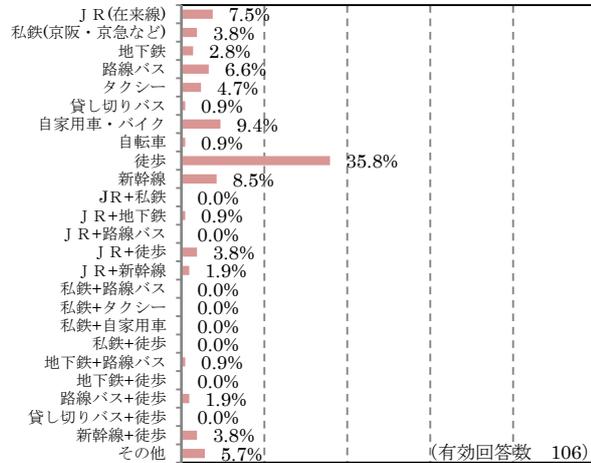


「徒歩」「自転車」等の公共交通を利用しない方法が7割を占める。



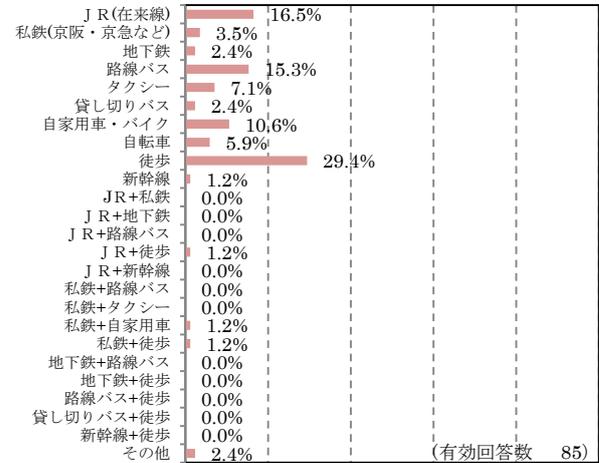
「徒歩」「自家用車・バイク」共に23.1%で、最も多い。

### 東本願寺



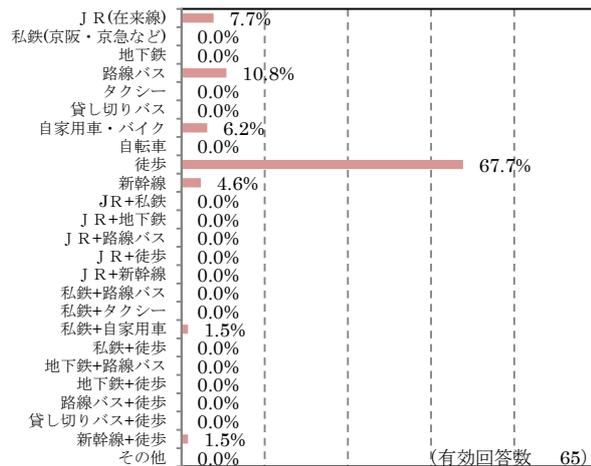
「徒歩」での来訪が35.8%と最も多い。

### 龍谷ミュージアム



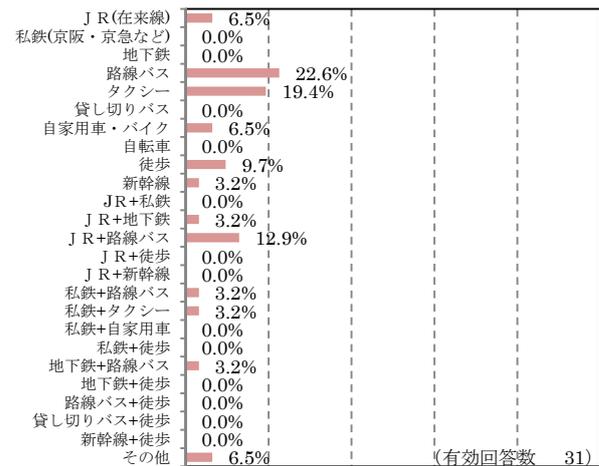
「徒歩」が最も高く29.4%、「路線バス」「JR」も比較的多い。

### 七条通商店街



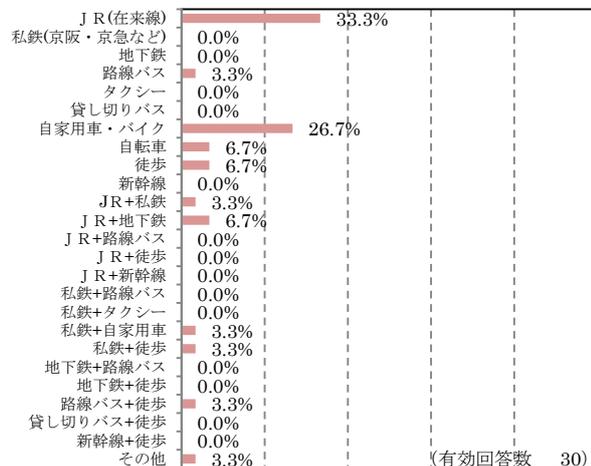
「徒歩」での来訪が67.7%で、とても多い。

### 角屋もてなしの文化美術館



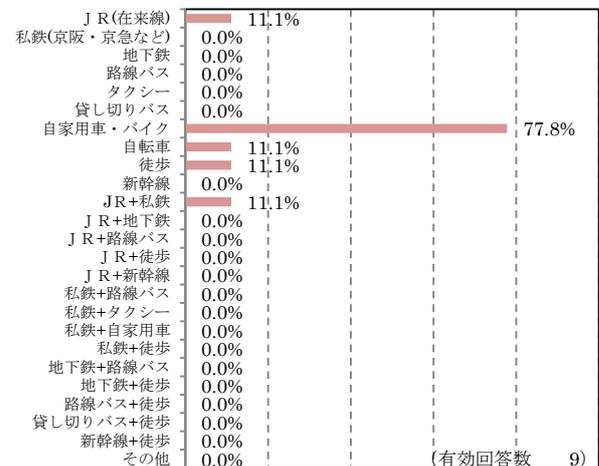
「路線バス」「タクシー」等の自動車の利用来訪が多い。

### あじわい館



「JR」が33.3%で最も多く、ついで「自家用車」26.7%が多い。

### 京都リサーチパーク



「自家用車・バイク」での来訪がほとんどである。

## (3-1) 『これからの来訪場所』について

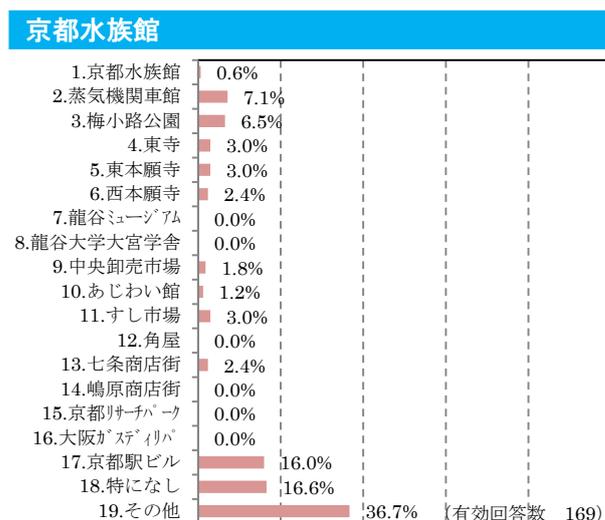
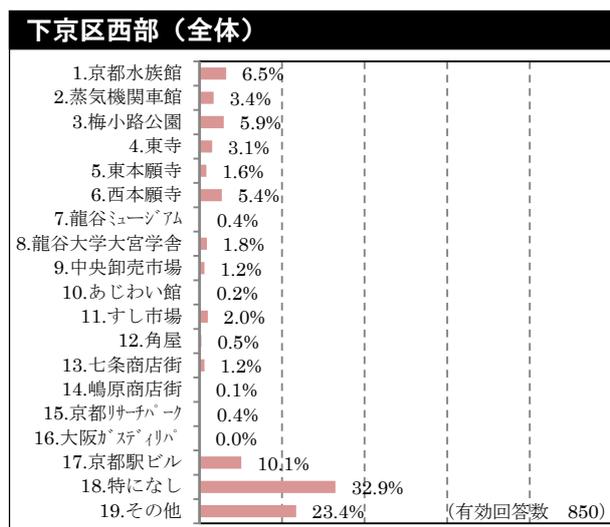
### 1) 質問内容

- ◆ 問3-1. 当施設・場所を訪れた“後に”訪問する場所・施設はどちらですか？  
(該当する番号すべてに○をつけてください)

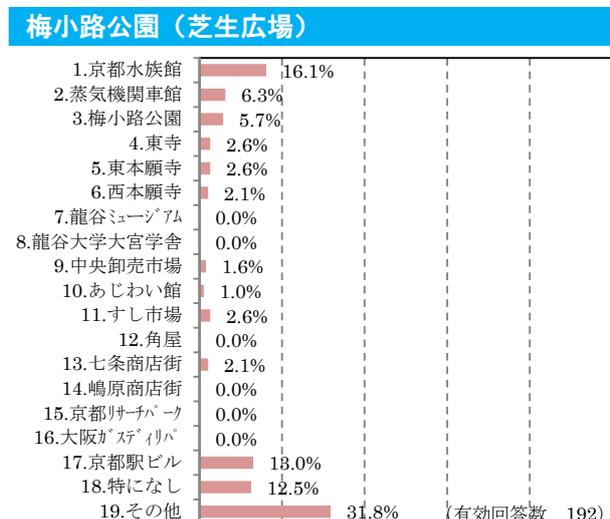
1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ディリパ
17. 京都駅ビル	18. 特になし	19. その他(具体的に)	

### 2) 集計結果概要(下京区西部全体)

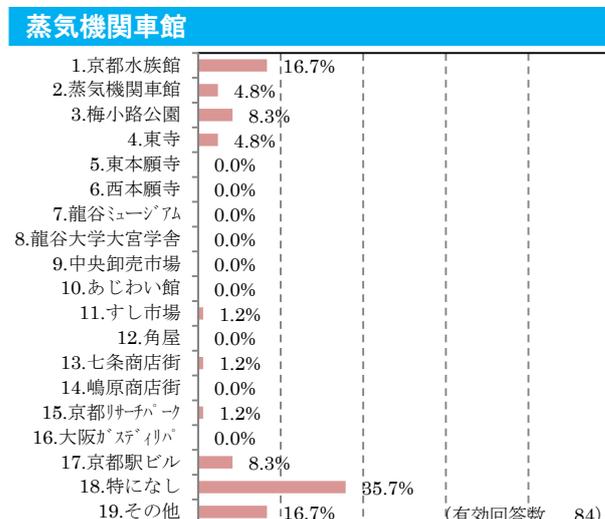
- ・最も多いのは、「特になし」で32.9%。
- ・比較的多いのが、「京都水族館」「梅小路公園」「西本願寺」などの大規模集客施設である。  
また「その他」も多く23.4%、内訳は京都市内・県内外の下京区西部エリア以外の施設である。
- ・小規模集客施設は、各所とも1%程度であり、京都駅から遠方になるほど減少傾向にある。



「その他」が36.7%と最も多く、ついで「京都水族館」が16.0%と多い。

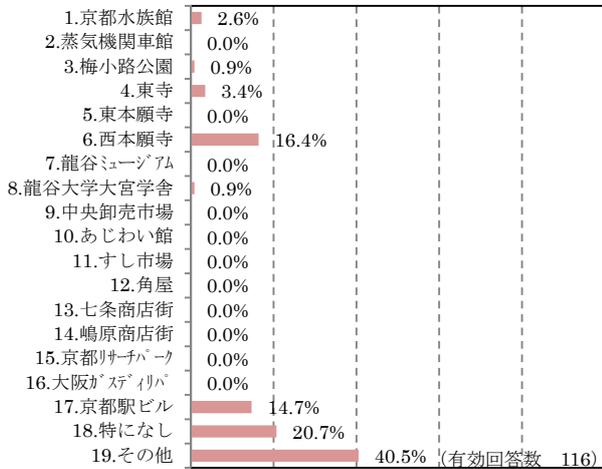


「その他」が31.8%と最も多く、ついで「京都水族館」が16.1%と多い。



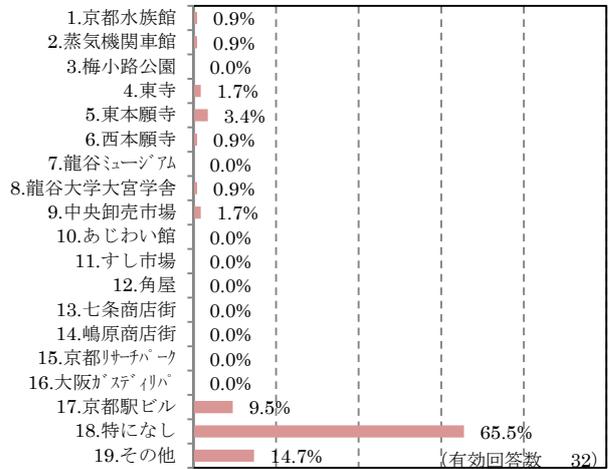
「京都水族館」「その他」共に16.7%と比較的多い。

### 東本願寺



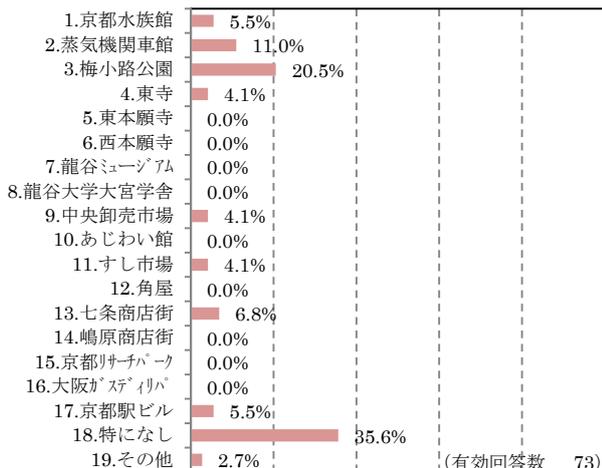
「その他」が40.5%と最も多く、ついで「西本願寺」が16.4%と多い。

### 龍谷ミュージアム



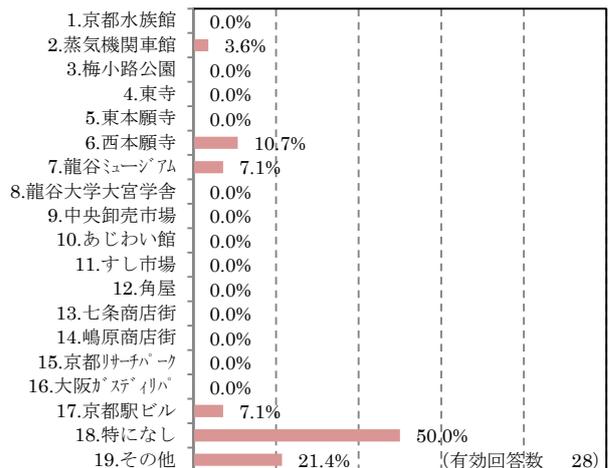
「その他」14.7% 「京都駅ビル」9.5%で比較的多い。

### 七条通商店街



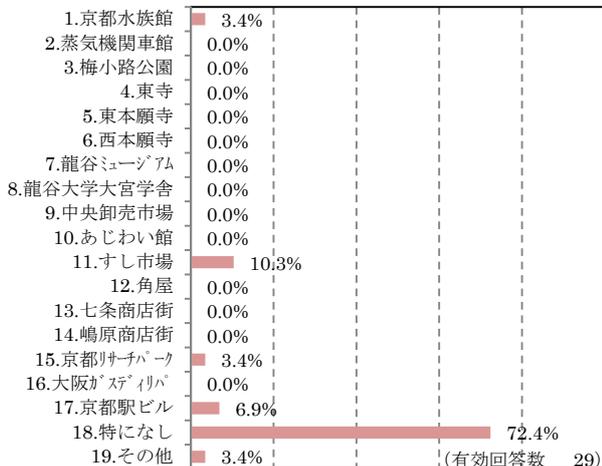
梅小路周辺施設への来訪が多い。

### 角屋もてなしの文化美術館



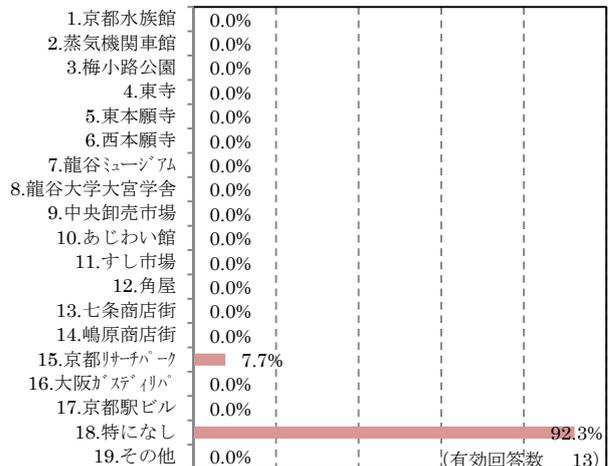
「その他」が21.4%と最も多く、ついで「西本願寺」が10.7%と多い。

### あじわい館



「特になし」が大半を占める、ついで「すし市場」が10.7%と多い。

### 京都リサーチパーク



「特になし」9割以上を占める。

## (3-2) 『これからの来訪場所への交通手段』について

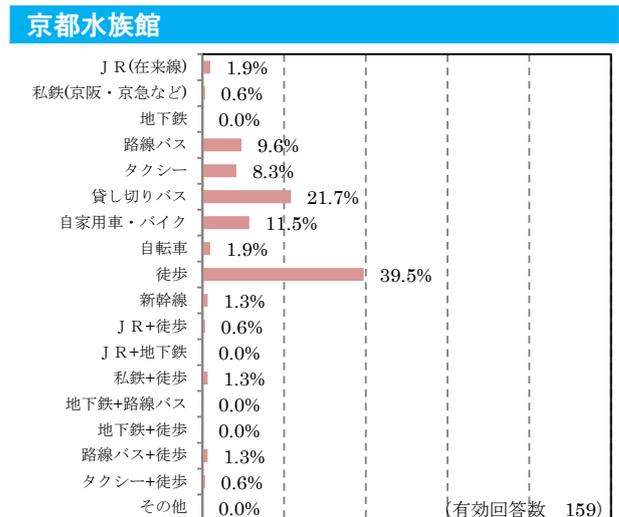
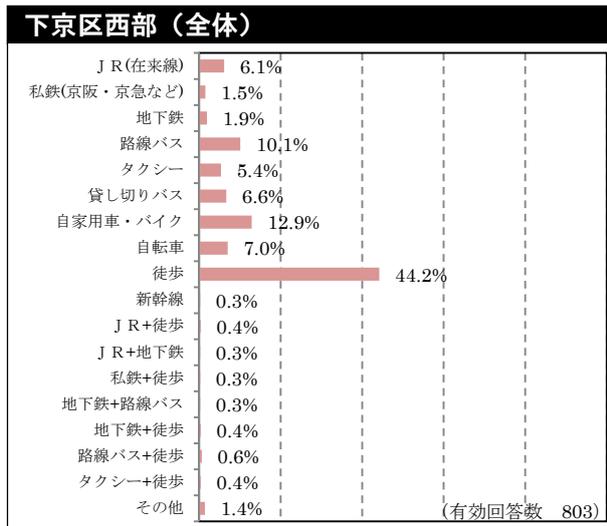
### 1) 質問内容

- ◆ 問3-2. その際、当施設・場所からは、どの様な交通手段を利用される予定ですか？  
(該当する番号すべてに○をつけてください)

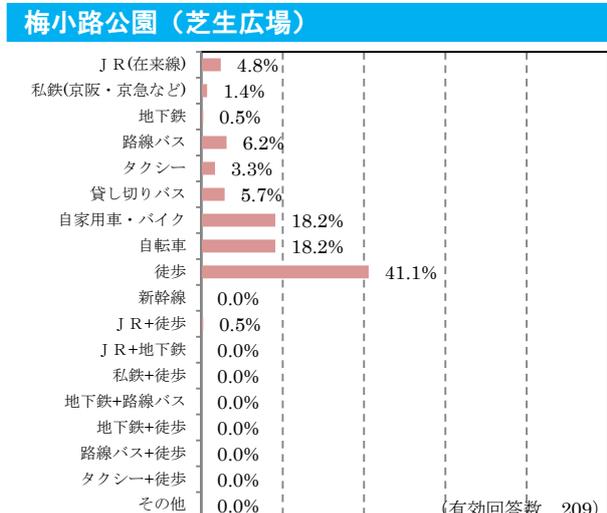
1. JR (在来線)	2. 私鉄 (京阪・阪急など)	3. 地下鉄
4. 路線バス	5. タクシー	6. 貸し切りバス
7. 自家用車・バイク	8. 自転車	9. 徒歩
10. 新幹線	11. 飛行機	12. 船

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

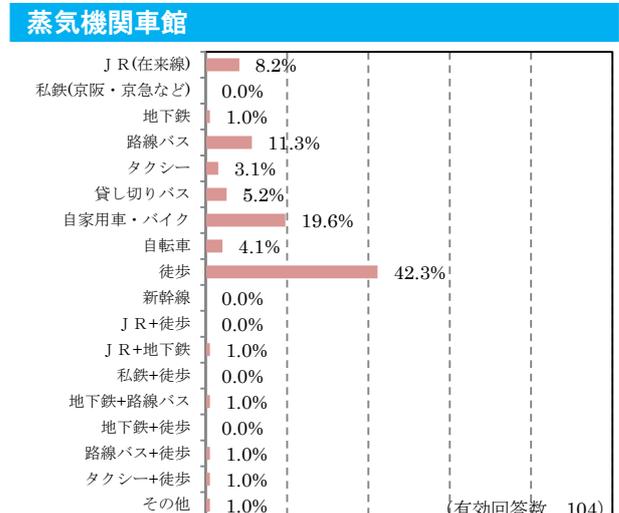
- ・最も多いのは「徒歩」44.2%。
- ・比較的多いのは、「路線バス」「タクシー」「自動車・バイク」などの自動車利用の交通手段で合計すると、35%となる。
- ・比較的少ないのは、鉄道「JR」6.1%「私鉄」1.5%「地下鉄」1.9%となっている。
- ・公共交通利用が少なく「徒歩」「自家用車・バイク」「自転車」を合計すると64.1%となる。



「徒歩」39.5%で最も多く、「貸し切りバス」も21.7%と比較的多い。

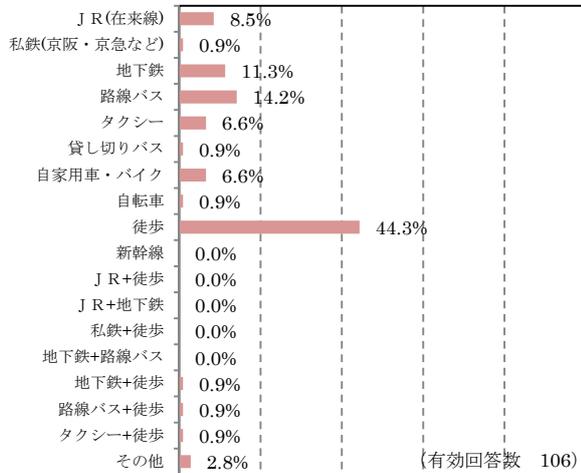


公共交通を利用しない方法が77.5%に及ぶ。



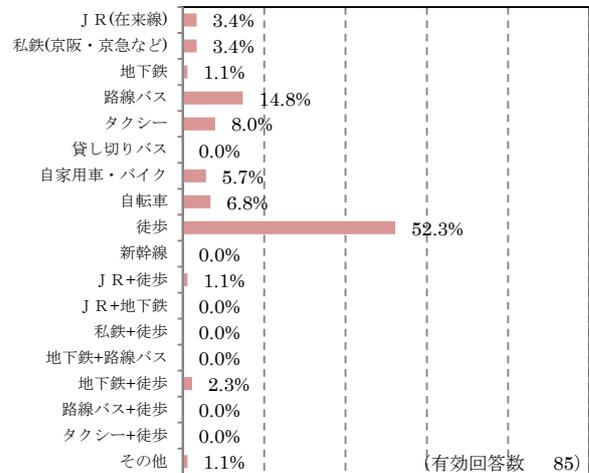
「徒歩」42.3%で最も多く、自動車の利用率も比較的多い。

### 東本願寺



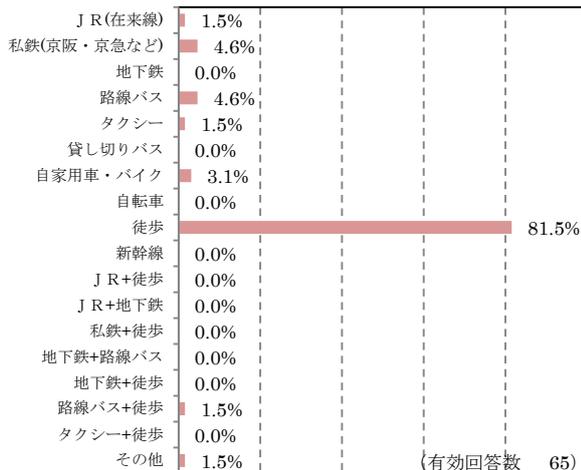
「徒歩」44.3%で最も多く、鉄道の利用率も比較的高い。

### 龍谷ミュージアム



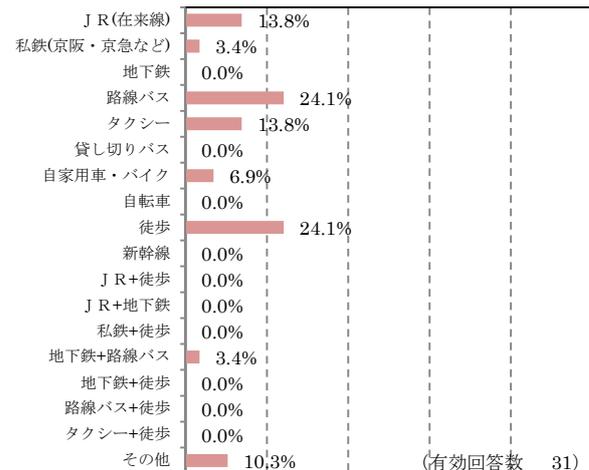
「徒歩」52.3%で最も多く、自動車の利用率も比較的高い。

### 七条通商店街



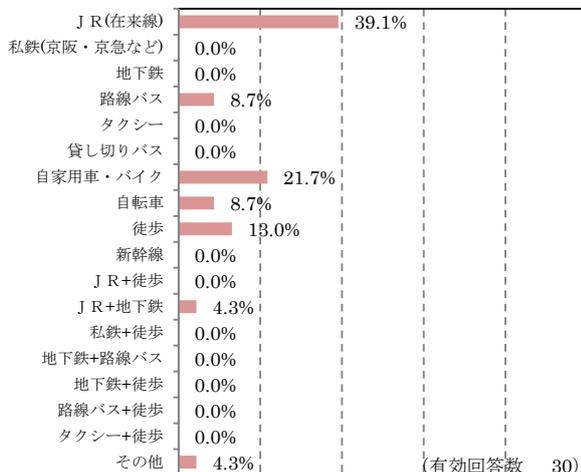
「徒歩」の割合が81.5%と非常に多い。

### 角屋もてなしの文化美術館



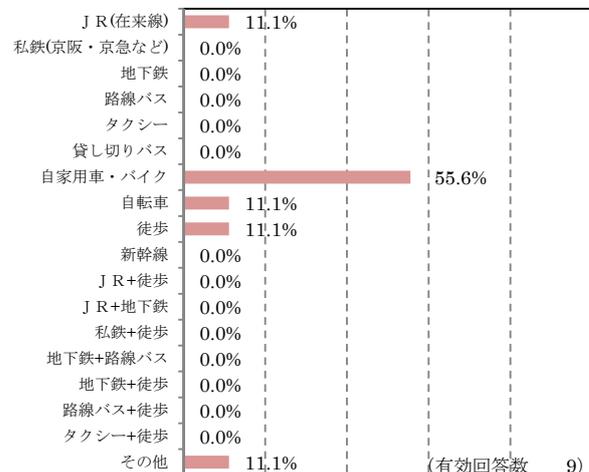
「徒歩」「路線バス」共に24.1%で、自動車の利用率も高い。

### あじわい館



「JR」39.1%で最も多く、公共交通利用以外も割合多い。

### 京都リサーチパーク



「自家用車・バイク」55.6%で、割合が半分を占める。

## (4) 『施設・場所の知名度』について

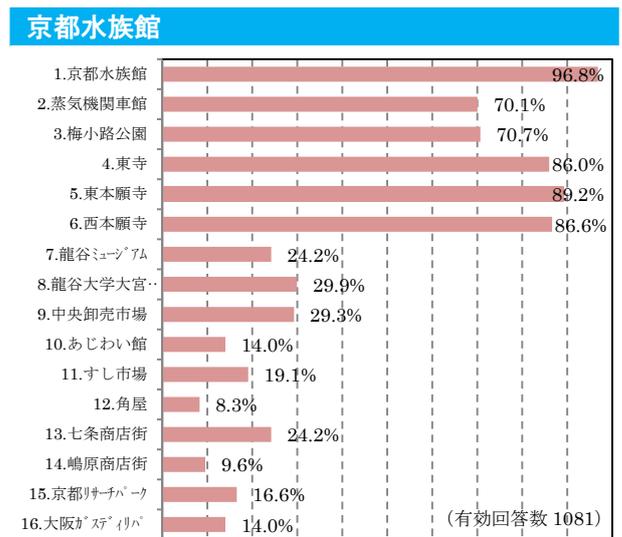
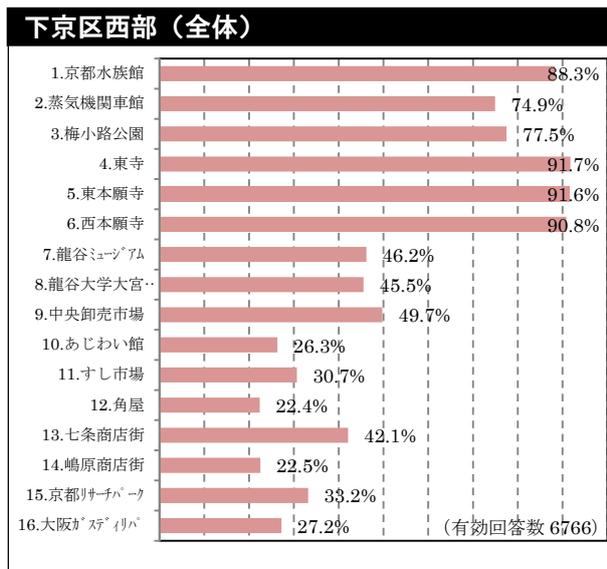
### 1) 質問内容

◆ 問4. ご存じの施設・場所はありますか？（該当する番号すべてに○をつけてください）

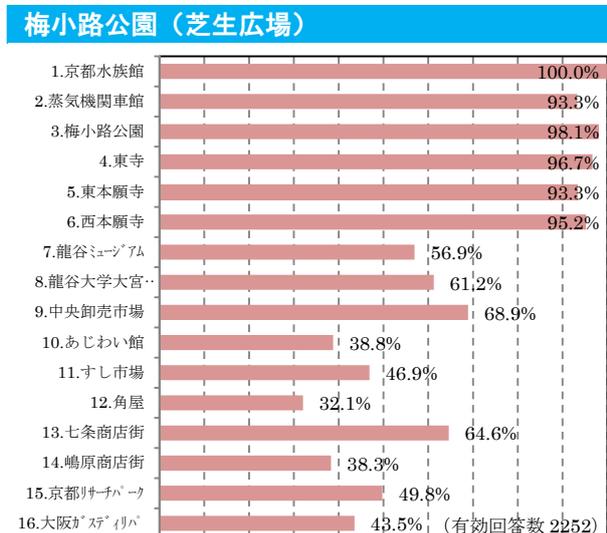
1. 京都水族館	2. 蒸気機関車館	3. 梅小路公園	4. 東寺
5. 東本願寺	6. 西本願寺	7. 龍谷ミュージアム	8. 龍谷大学大宮学舎
9. 中央卸売市場	10. あじわい館	11. すし市場	12. 角屋もてなしの文化美術館
13. 七条通商店街	14. 嶋原商店街	15. 京都リサーチパーク	16. 大阪ガス ティリパ

### 2) 集計結果概要（下京区西部全体）

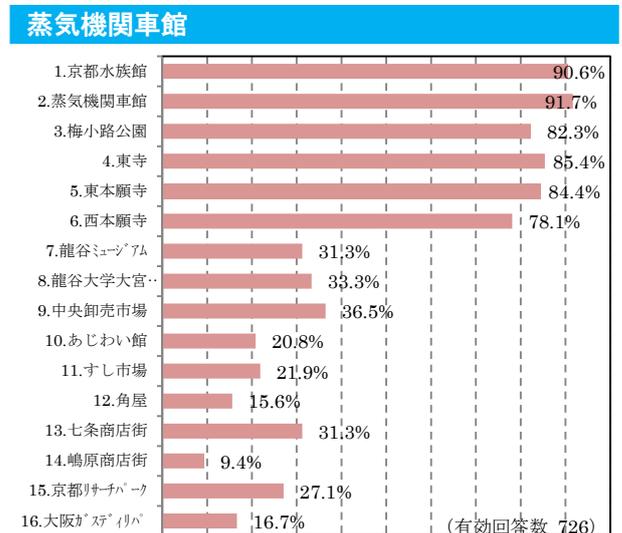
- ・最も高いのは「東寺」91.7%、ついで「東本願寺」91.6%「西本願寺」90.8%でほぼ同等である。
  - ・比較的高いのは、大規模集客施設で全てにおいて知名度は7割を超える。
  - ・比較的少ないのは、嶋原の施設「角屋」22.4%「嶋原商店街」22.5%となっている。
  - ・寺社の知名度が高く、ついで梅小路周辺施設の順となっている。
- 嶋原や JR 丹波口駅周辺の施設は全てにおいて、知名度が低いことがわかる。



大規模集客施設、寺社の知名度が高い。

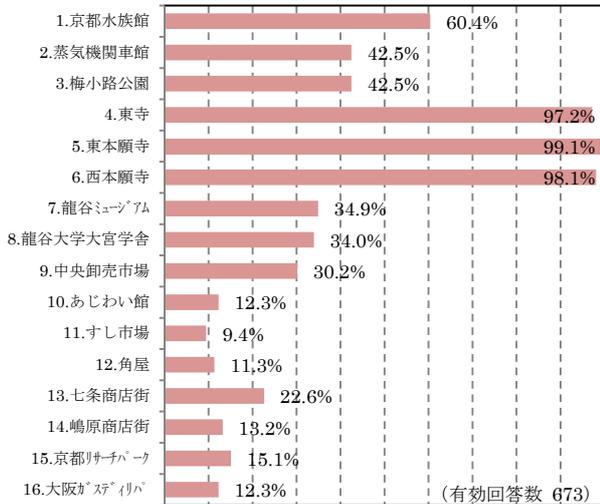


大規模集客施設、寺社の知名度が高い。



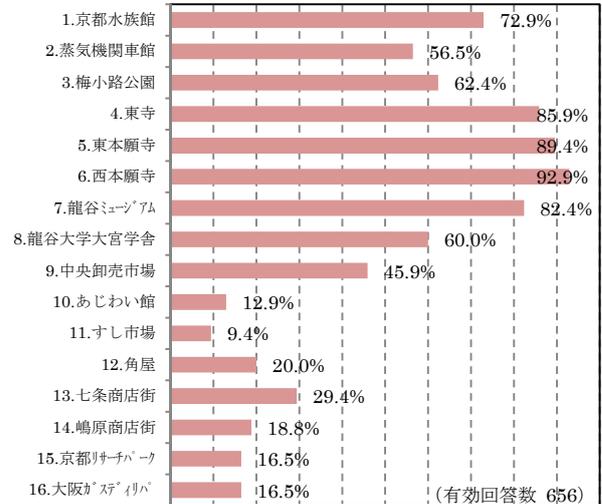
大規模集客施設、寺社の知名度が高い。

### 東本願寺



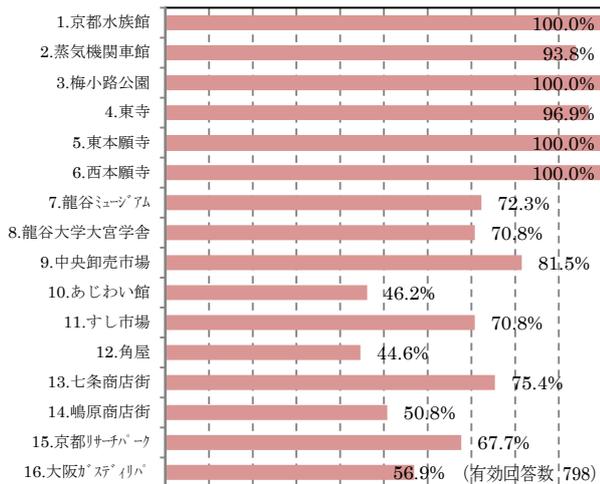
寺社の知名度のみ非常に高い。

### 龍谷ミュージアム



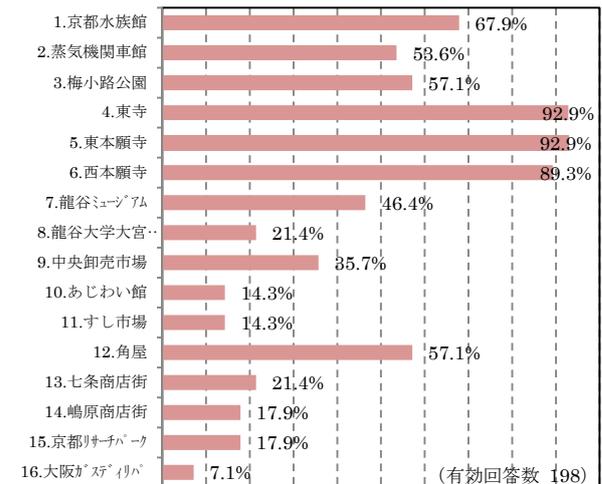
寺社の知名度が高く、ついで大規模集客施設が高い。

### 七条通商店街



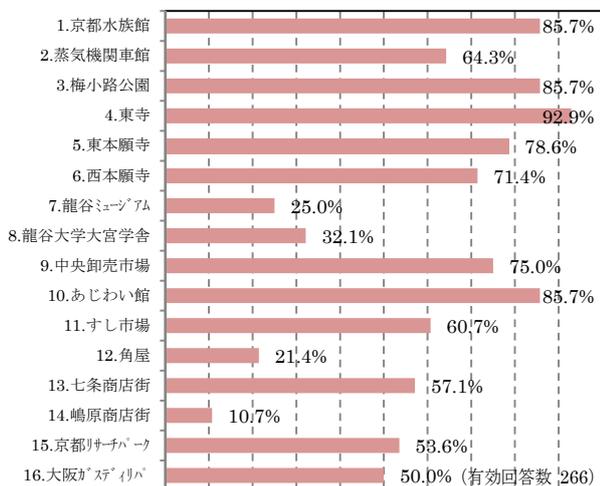
小規模な施設も他のアンケート実施場所に比べ、全体的に数値が高い。

### 角屋もてなしの文化美術館



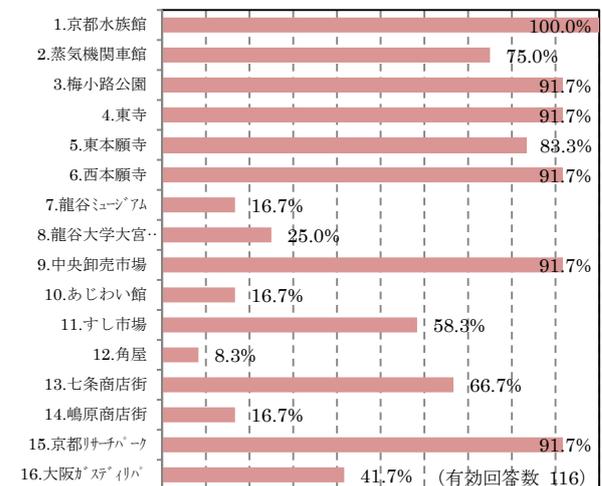
寺社の知名度が高く、ついで大規模集客施設が高い。

### あじわい館



市場関連の施設の知名度は高いが、嶋原の施設が全体に低い。

### 京都リサーチパーク



龍谷大学関連施設、嶋原の施設、共に全体に知名度が低い。

## (5) 『必要だと思う施設・サービス』について

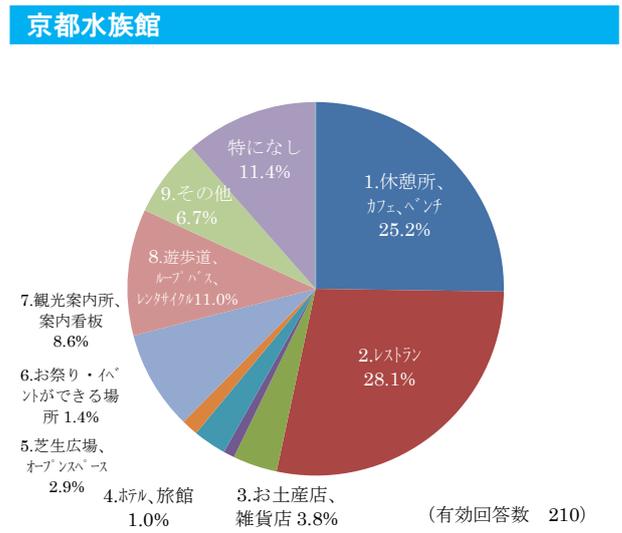
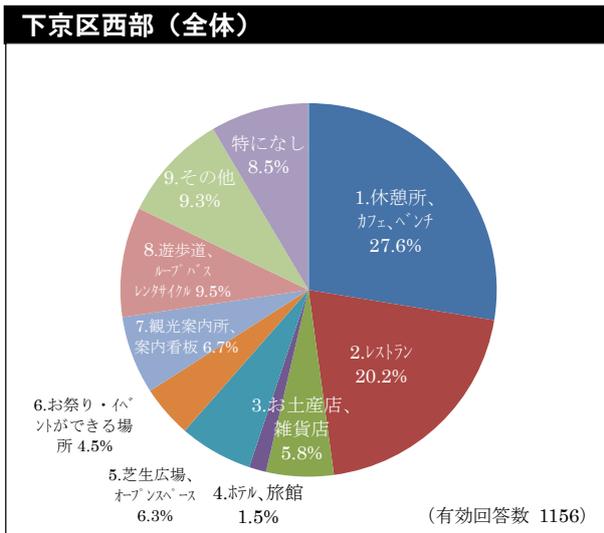
### 1) 質問内容

- ◆ 問5. 当エリアにはどのような施設・サービスがあれば良いと思いますか。  
(該当する番号すべてに○をつけてください。)

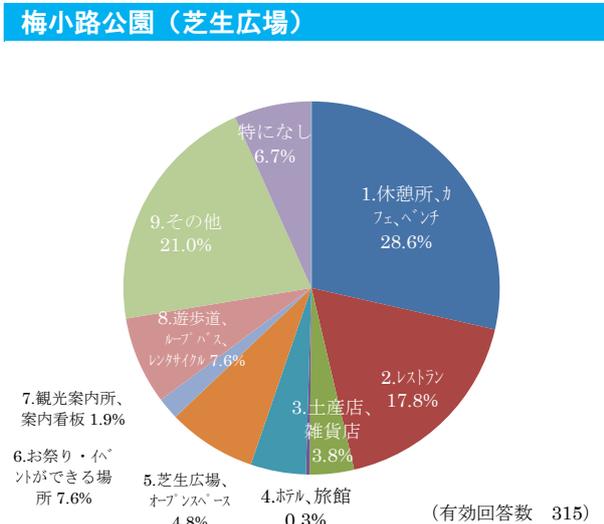
1. 休憩所・交流スペース（カフェ、ベンチ等）	2. 飲食施設・サービス（レストラン等）
3. 商業施設（お土産屋、衣料・雑貨店等）	4. 宿泊ができる施設・機能（ホテル・旅館等）
5. 公園スペース（芝生広場、オープンスペース等）	6. お祭り・イベントができる広場空間・サービス（屋外ステージ、イベント等）
7. 情報施設や案内サービス（観光案内所、サイン等）	8. 施設間を快適に周遊できる散策路やサービス（遊歩道、ループバス、レンタサイクル等）
9. その他 (具体的に )	

### 2) 集計結果概要（下京区西部全体）

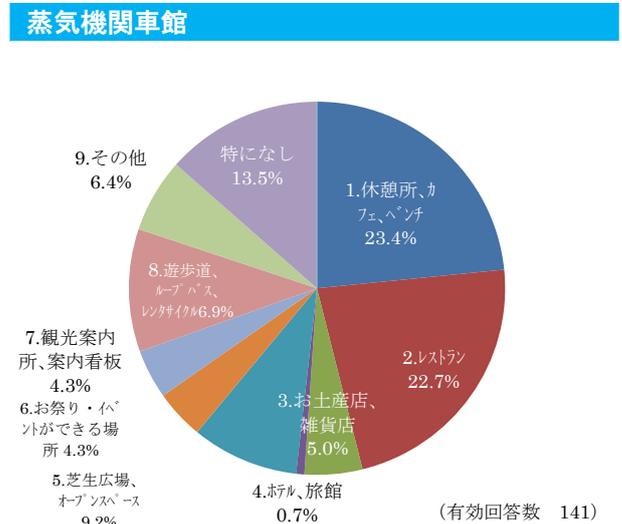
- ・最も多いのは「休憩所・交流スペース」27.6%。
- ・比較的多いのは、「休憩所・交流スペース」20.2%となる。
- ・比較的少ないのは、「ホテル、宿泊施設」で1.5%となる。
- ・「飲食施設」「休憩所・交流スペース」は全ての実施場所において半数近くを占めた、その他に関しては1割程度かそれ未満。



「カフェ」「レストラン」等の飲食・休憩関連施設が半数を占める。

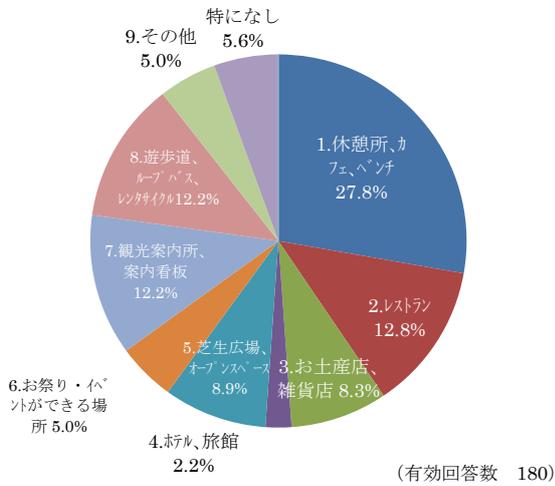


「その他」として公園設備関連の内容が多かった。



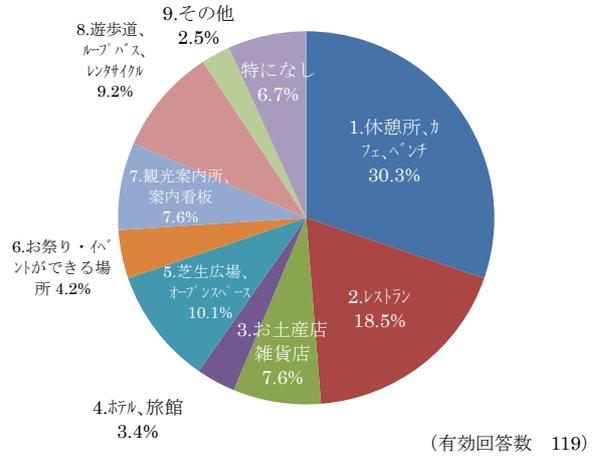
「カフェ」「レストラン」等の飲食・休憩関連施設が半数を占める。

### 東本願寺



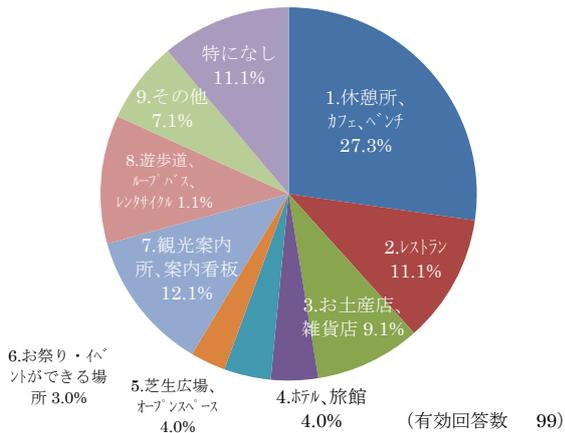
「観光案内」に関する項目が他の実施場所より多い。

### 龍谷ミュージアム



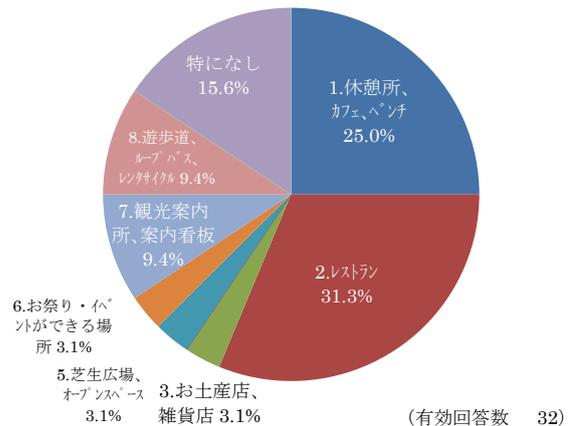
「カフェ」「レストラン」等の飲食・休憩関連施設が半数を占める。

### 七条通商店街



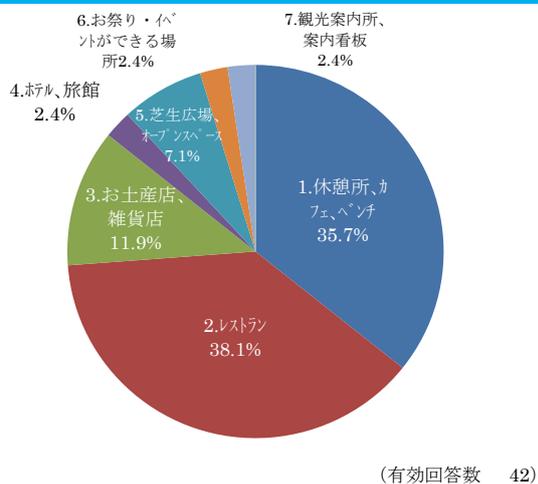
「お土産・雑貨店」に関する項目が他の実施場所より多い。

### 角屋もてなしの文化美術館



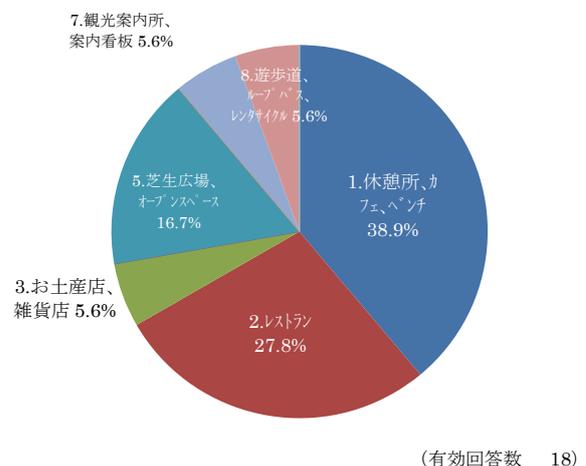
「カフェ」「レストラン」等の飲食・休憩関連施設が他の実施場所より多い。

### あじわい館



「レストラン」等の飲食関連施設が他の実施場所より多い。

### 京都リサーチパーク



「休憩」「広場」関連施設が他の実施場所より多い。

## (属性①)『性別』について

### 1) 質問内容

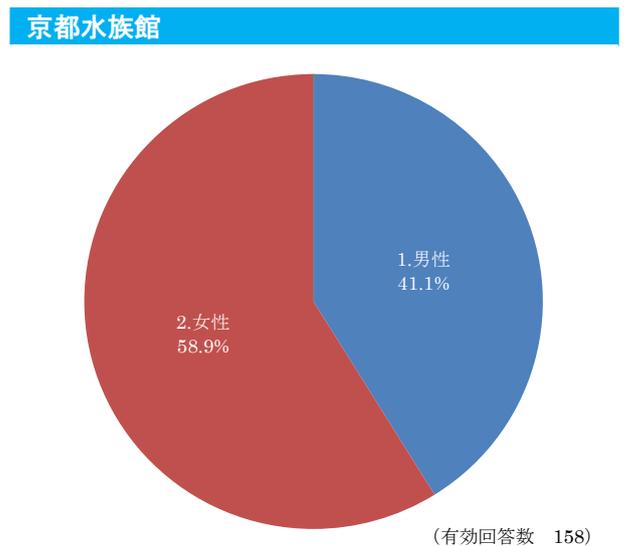
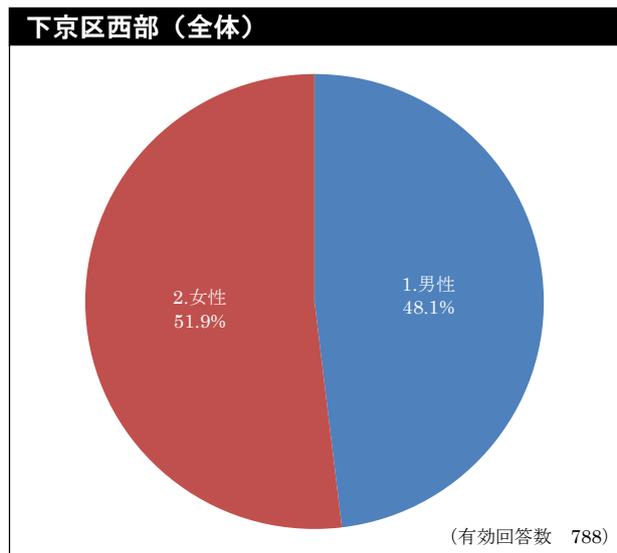
- ◆ 問6. 最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。  
(該当する番号ひとつに○をつけてください。)

#### (1) 性別

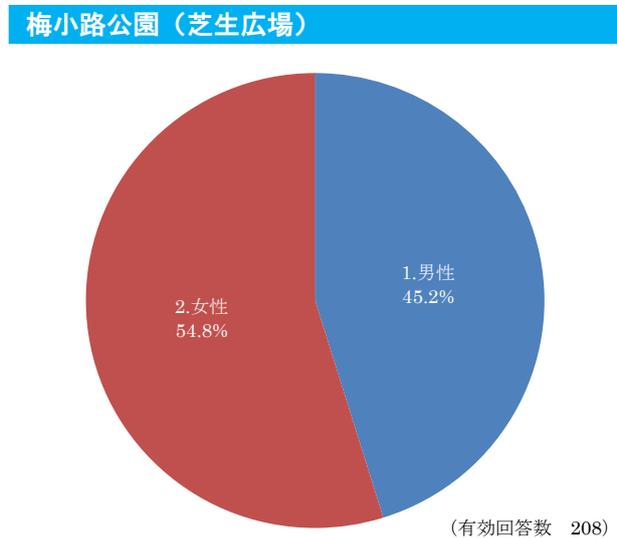
1. 男性	2. 女性
-------	-------

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

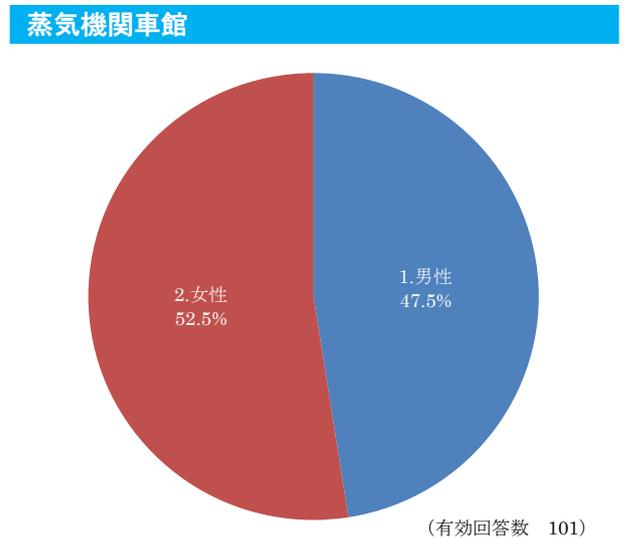
- ・男性が 48.1%、女性が 51.9% で女性がわずかに多かった。



男性 41.1% に比べ、女性が 58.9% と、やや多い。

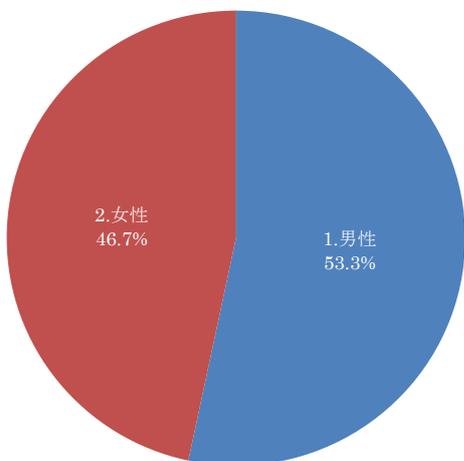


男性 45.2% に比べ、女性が 54.8% と、わずかに多い。



男性 47.5% に比べ、女性が 52.5% で、ほぼ同等である。

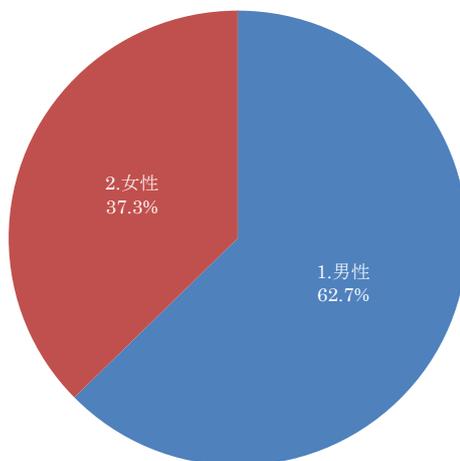
東本願寺



(有効回答数 105)

男性 53.3%に比べ、女性が 46.7%で、わずかに少ない。

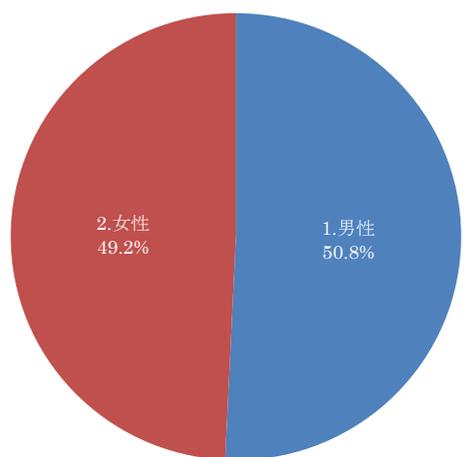
龍谷ミュージアム



(有効回答数 83)

男性 62.7%に比べ、女性が 37.3%と、少ない。

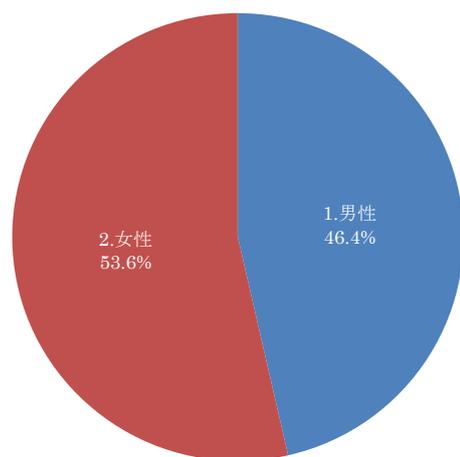
七条通商店街



(有効回答数 65)

男性 50.8%に比べ、女性が 49.2%で、わずかに少ない。

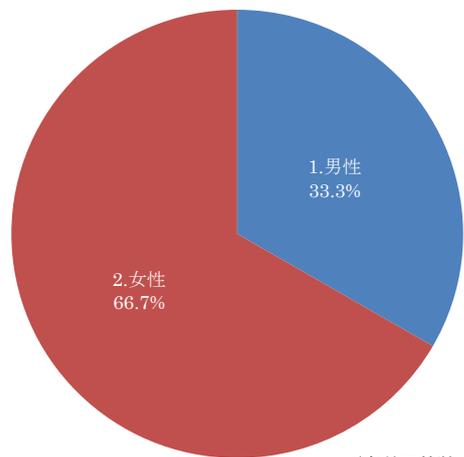
角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 83)

男性 46.4%に比べ、女性が 53.6%と、わずかに多い。

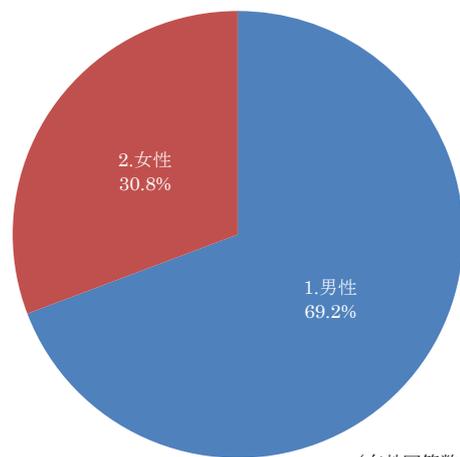
あじわい館



(有効回答数 27)

男性 33.3%に比べ、女性が 66.7%で、とても多い。

京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

男性 69.2%に比べ、女性が 30.8%と、とても少ない。

## (属性②) 『年齢』について

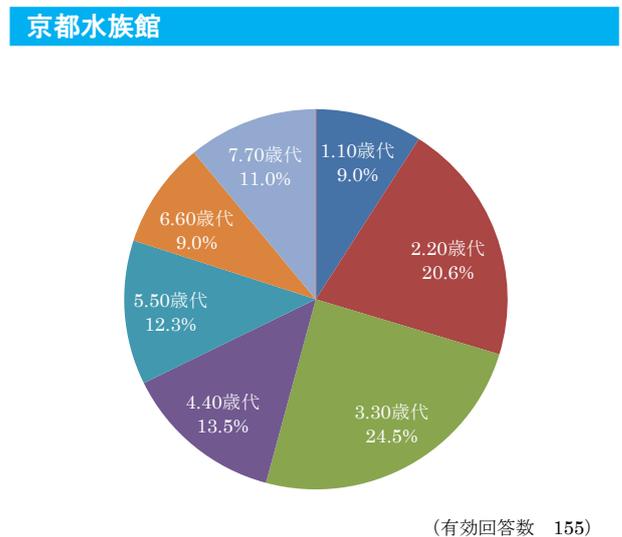
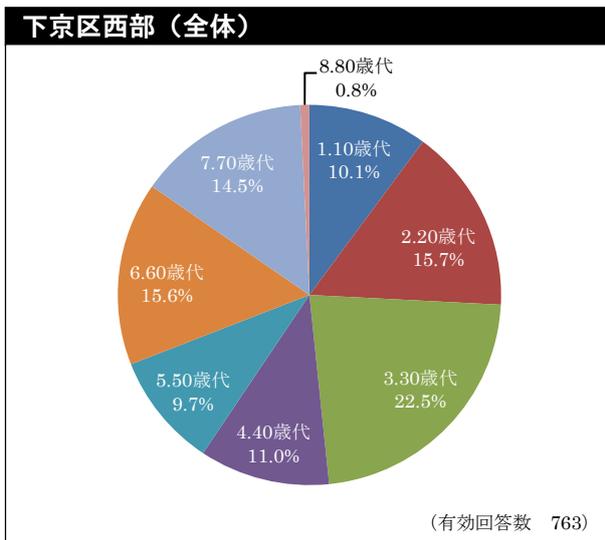
### 1) 質問内容

#### (2) 年代

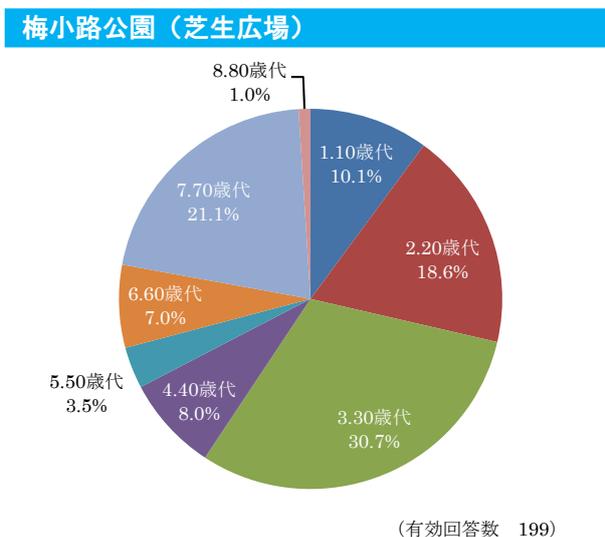
1. 10 歳代	2. 20 歳代	3. 30 歳代	4. 40 歳代
5. 50 歳代	6. 60 歳代	7. 70 歳代	8. 80 歳以上

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

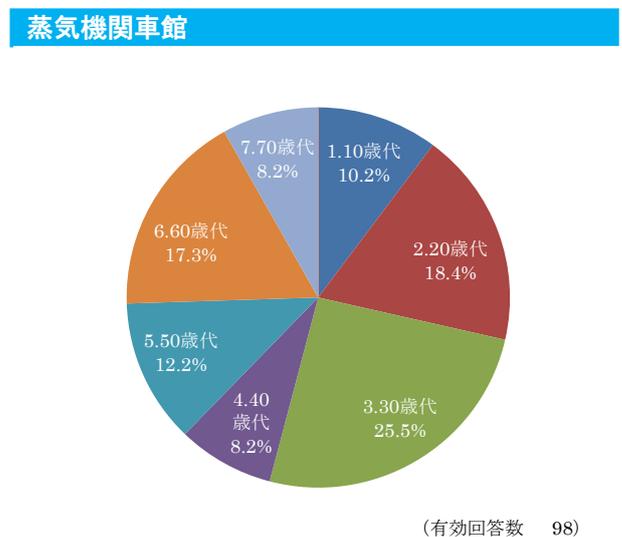
- ・最も多いのは「30 歳代」22.5%。
- ・比較的多いのは、「20 歳代」15.7%ついで「60 歳代」15.6%「70 歳代」14.5%の順となる。
- ・比較的少ないのは、「40 歳代」「50 歳代」の中年層で20%程度である。
- ・「10～30 歳」若年層が半数を占め、「60 歳以上」の高齢層が3割、「40～50 歳」の中年層が一番少なく2割だった。



実施場所の中で、比較的40～50歳代の割合が多い。

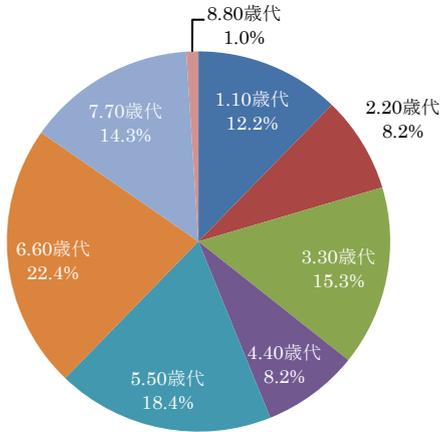


実施場所の中で、比較的30歳代、70歳代の割合が多い。



実施場所の中で比較すると、50～60歳代の割合が多い。

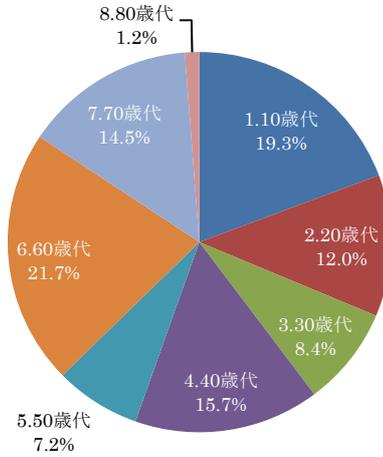
### 東本願寺



(有効回答数 98)

実施場所の中で比較すると、50~70歳代の割合が多い。

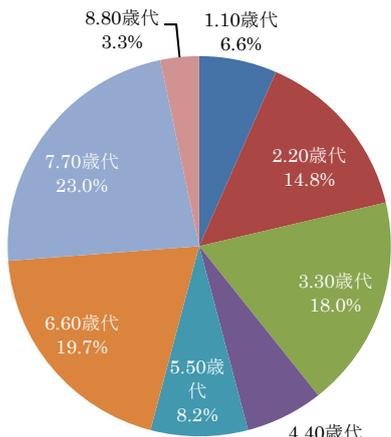
### 龍谷ミュージアム



(有効回答数 83)

実施場所の中で、最も10・40歳代の割合が多い。

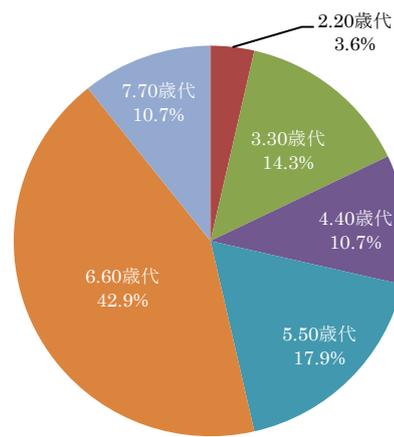
### 七条通商店街



(有効回答数 61)

実施場所の中で、最も70歳代の割合が多い。

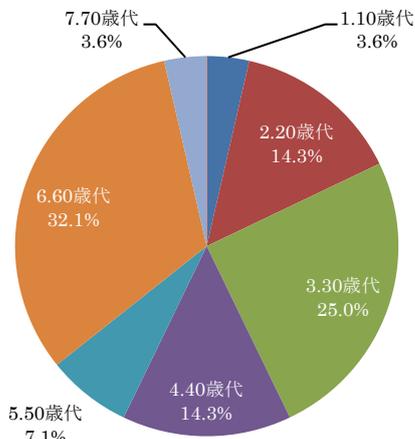
### 角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 28)

実施場所の中で、最も60~70歳代の割合が多い。

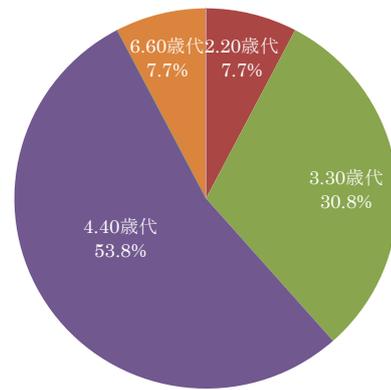
### あじわい館



(有効回答数 28)

実施場所の中で、比較的60歳代の割合が多い。

### 京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

実施場所の中で、最も40代の割合が多い。

## (属性③) 『居住地』について

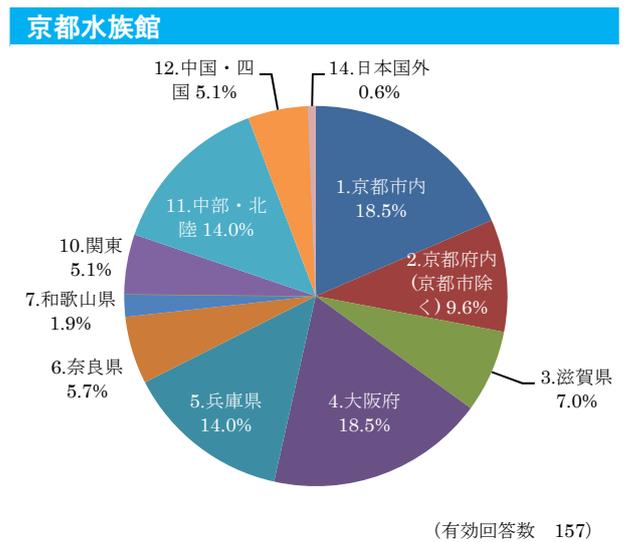
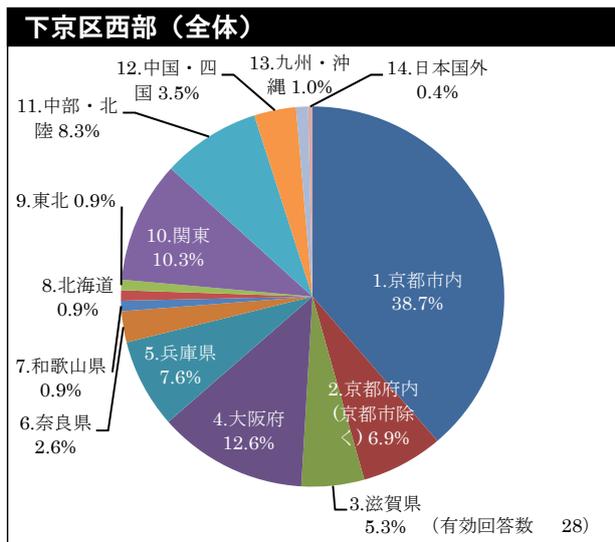
### 1) 質問内容

#### (3) お住まい

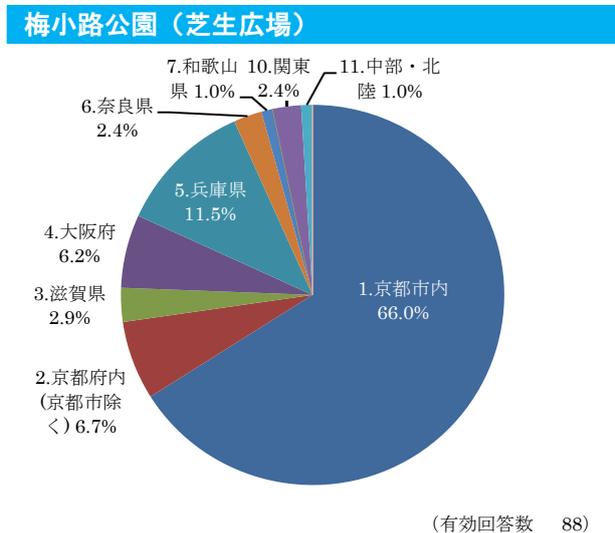
1. 京都市内	2. 京都府内(京都市除く)	3. 滋賀県	4. 大阪府
5. 兵庫県	6. 奈良県	7. 和歌山県	8. 北海道
9. 東北	10. 関東	11. 中部・北陸	12. 中国・四国
13. 九州・沖縄	14. 日本国外(国名)		

### 2) 集計結果概要(下京区西部全体)

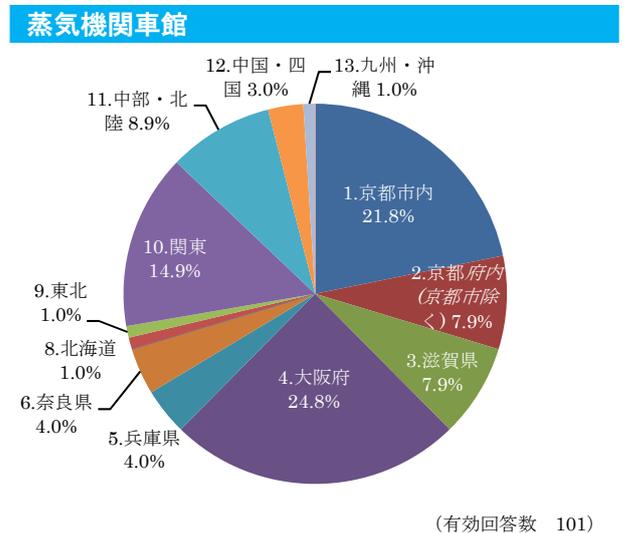
- ・最も多いのは「京都市内」38.7%となっている。
- ・比較的多いのは、「20歳代」15.7%「60歳代」15.6%「70歳代」14.5%となっている。
- ・比較的少ないのは、「40歳代」「50歳代」の中年層で20%程度である。
- ・「20～40歳代」子育て世代が半数を占めている。



京都府・隣接する県から均一な割合である。

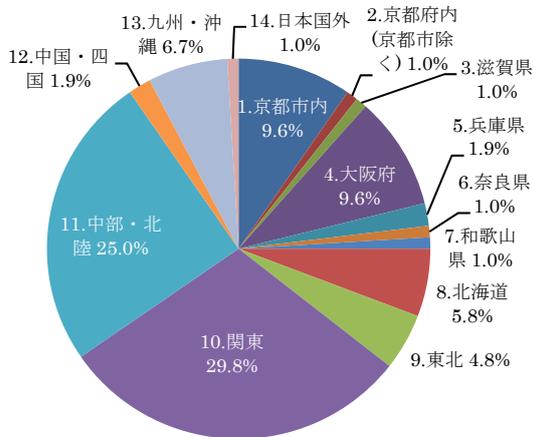


京都市内からの来訪者が66.0%と、とても多い。



大阪府・関東からの来訪者が比較的多い。

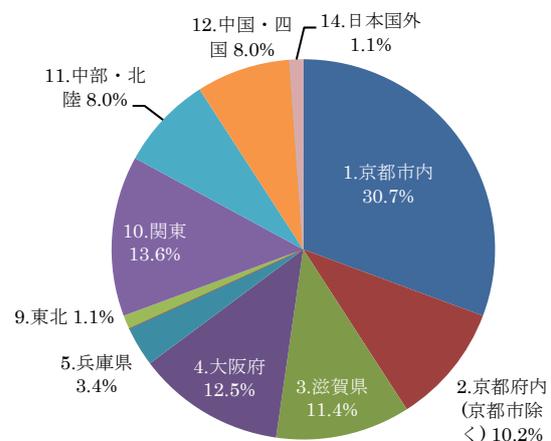
### 東本願寺



(有効回答数 104)

日本全国、関西圏外からの来訪者が74%で、とても多い。

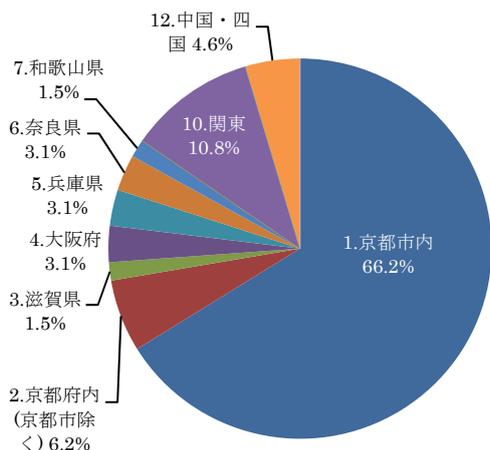
### 龍谷ミュージアム



(有効回答数 88)

日本全国、関西圏外からの来訪者が74%で、とても多い。

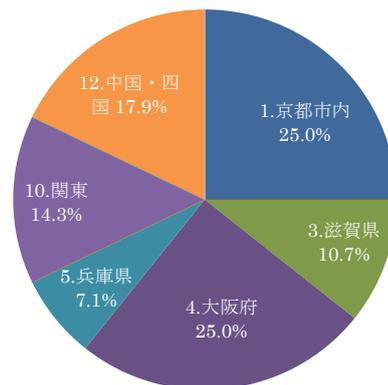
### 七条通商店街



(有効回答数 65)

京都市内が大半、関西圏・関東も少数だが来訪している。

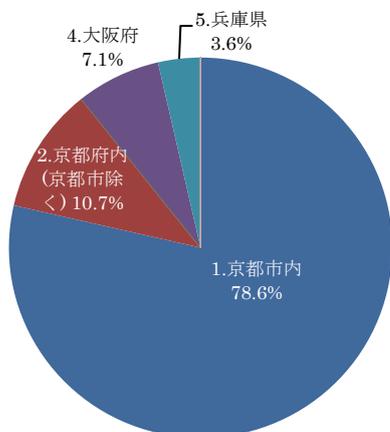
### 角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 28)

東北・九州などの来訪者がいない地域もみられる。

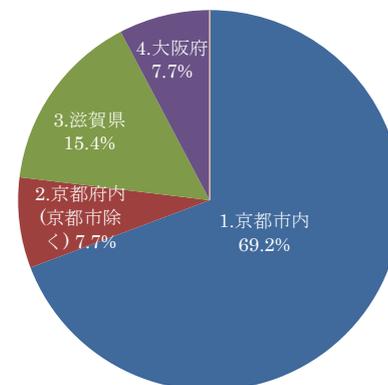
### あじわい館



(有効回答数 28)

京都市内・府内の来訪者が9割である。

### 京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

京都市内が大半だが、比較的滋賀県も多い。

## (属性④) 『予定』について

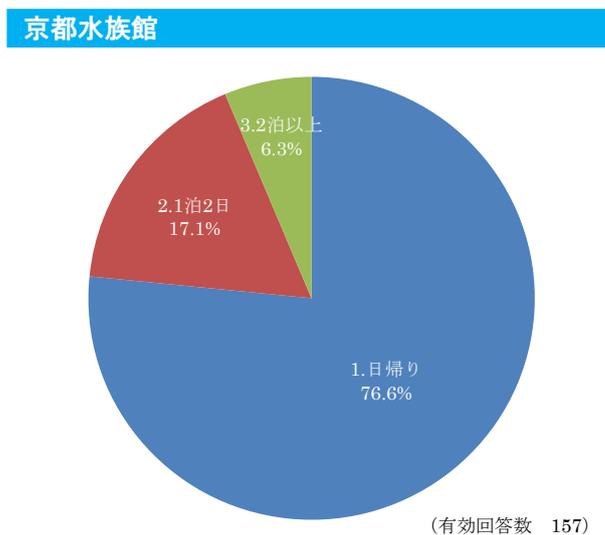
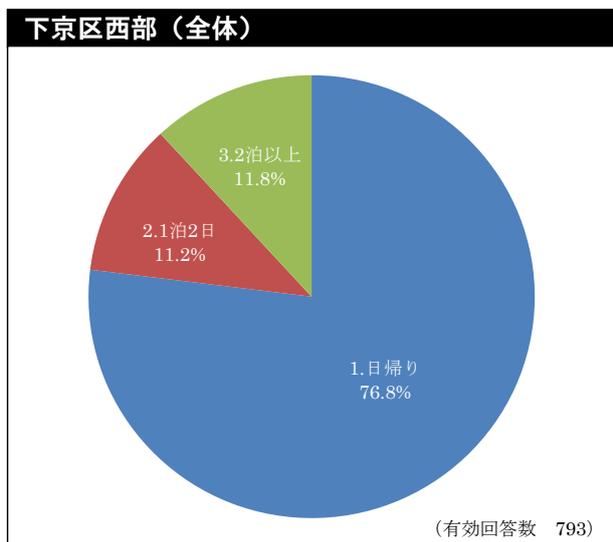
### 1) 質問内容

#### (4) ご予定について

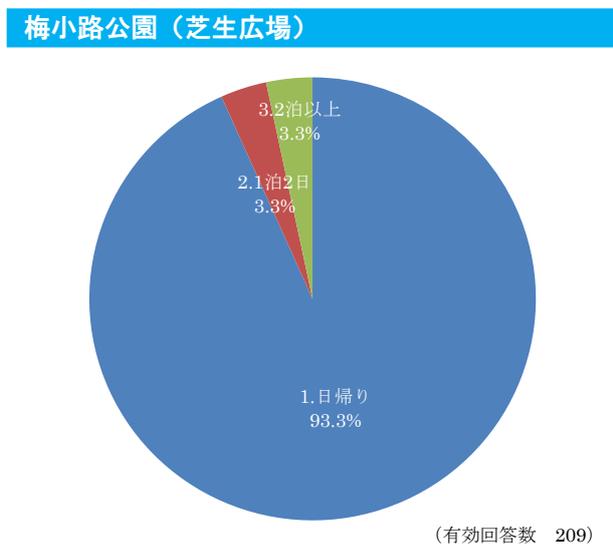
1. 日帰り	2. 1泊2日	3. 2泊以上
--------	---------	---------

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

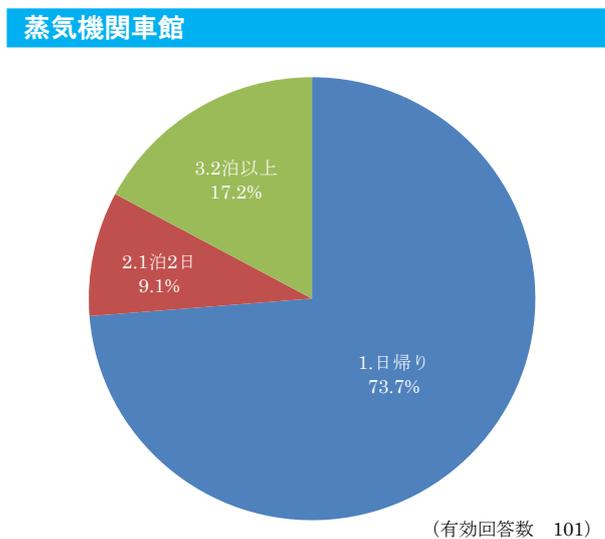
- ・最も多いのは「日帰り」76.8%となっている。
- ・宿泊予定の割合は、「1泊2日」「2泊以上」合わせて、23%となっている。



宿泊予定の来訪者が 23.1% で、比較的多い。

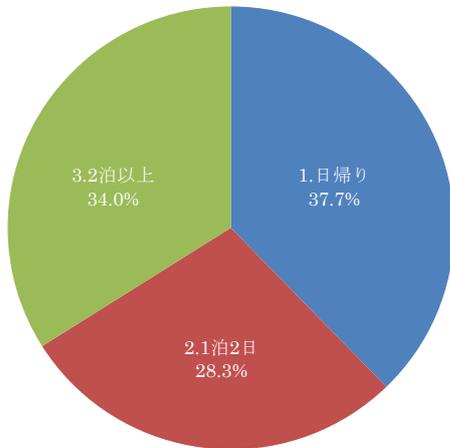


日帰りがとても多いが、わずかに宿泊予定の来訪者もいる。



宿泊予定の来訪者が 26.3% で、比較的多い。

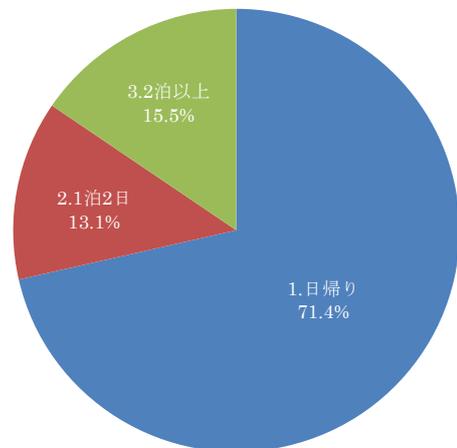
### 東本願寺



(有効回答数 104)

宿泊予定の来訪者が多く、2泊以上の割合もとても多い。

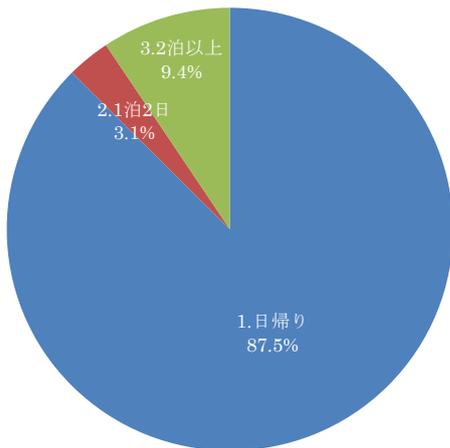
### 龍谷ミュージアム



(有効回答数 88)

宿泊予定の来訪者が26.3%で、比較的多い。

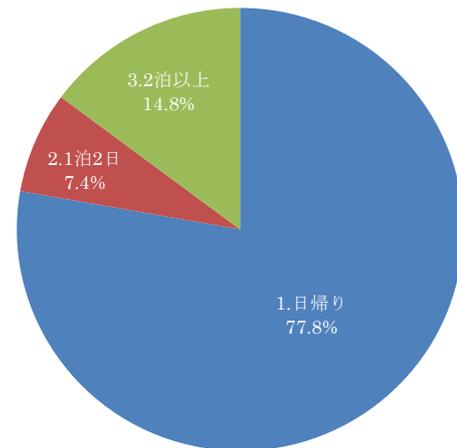
### 七条通商店街



(有効回答数 65)

日帰りがとても多いが、2泊以上の来訪者も比較的いる。

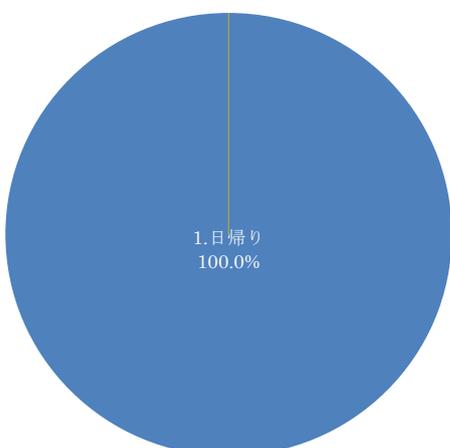
### 角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 28)

2泊以上の来訪者が14.8%で、比較的多い。

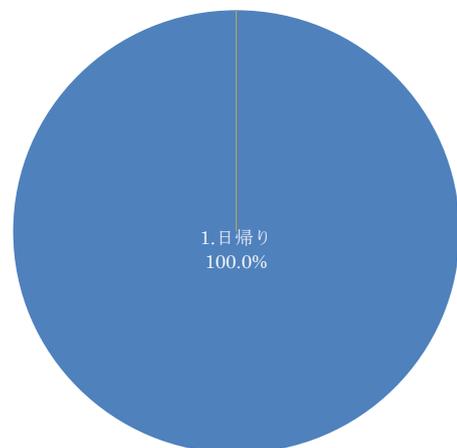
### あじわい館



(有効回答数 28)

日帰り来訪者しかいない。

### 京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

日帰り来訪者しかいない。

## (属性⑤)『同行者』について

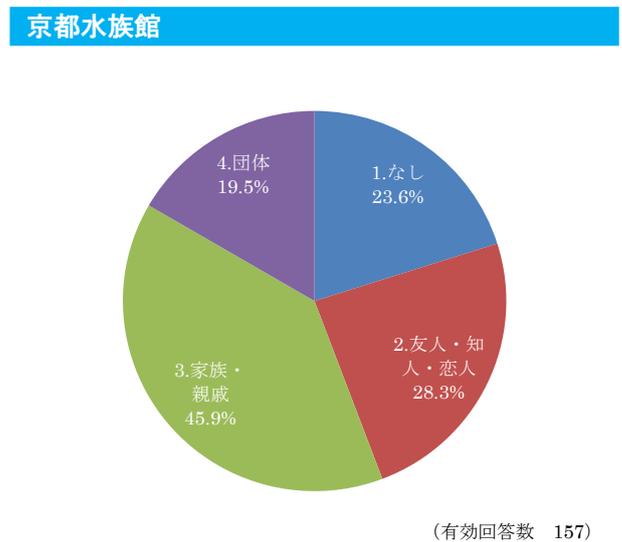
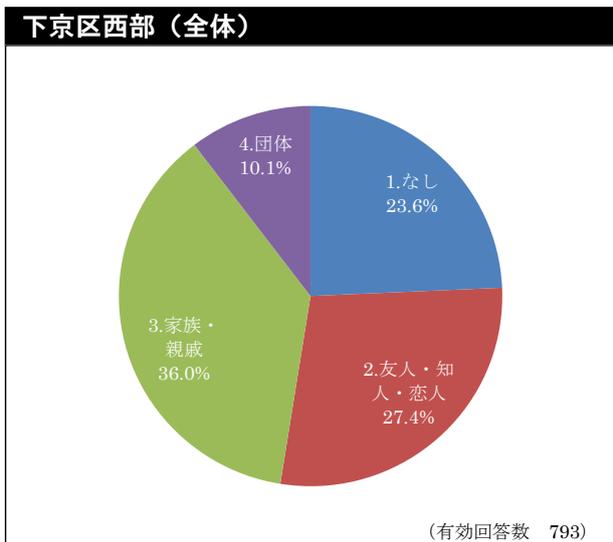
### 1) 質問内容

#### (5) 同行者について

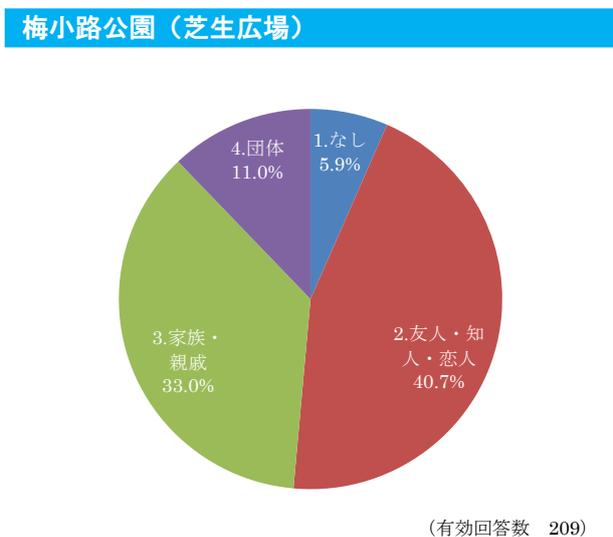
1. なし	2. 友人・知人・恋人	3. 家族・親戚	4. 団体
-------	-------------	----------	-------

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

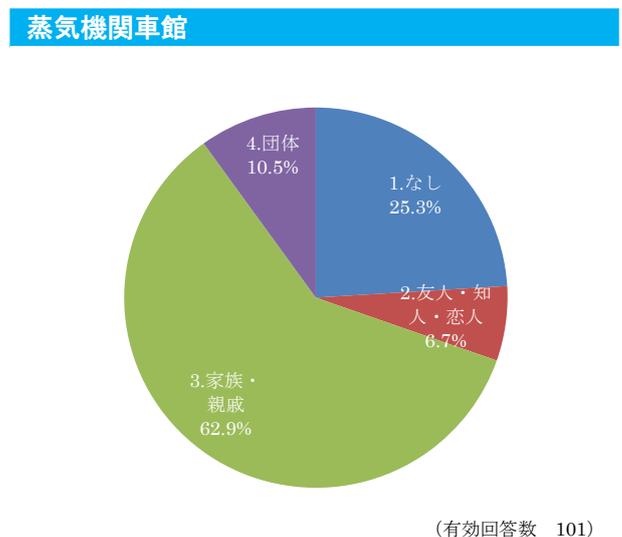
最も多いのは「家族・親戚」36.0%、ついで「なし」23.6%、「友人・知人・恋人」27.4%、「団体」10.1%の順となっている。



団体での来訪者が19.5%と比較的多い。

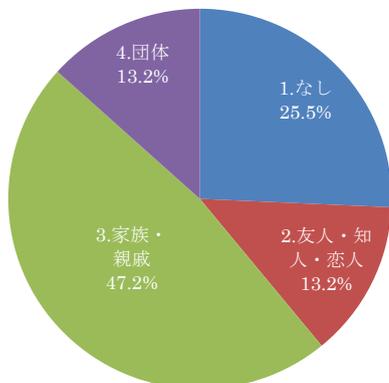


同行者なしが5.9%で、実施場所の中で最も少ない



家族・親戚との来訪者が62.9%と非常に多い。

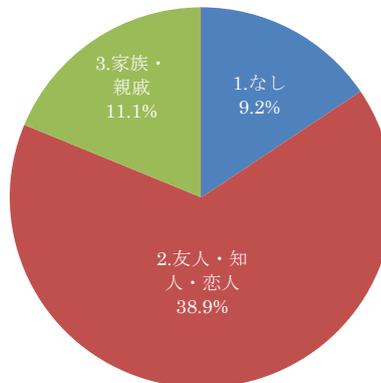
### 東本願寺



(有効回答数 104)

家族・親戚との来訪者が47.2%で、実施場所の中で比較的多い。

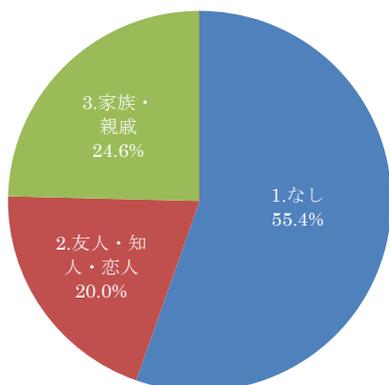
### 龍谷ミュージアム



(有効回答数 32)

友人・知人・恋人との来訪者が実施場所の中で比較的多い。

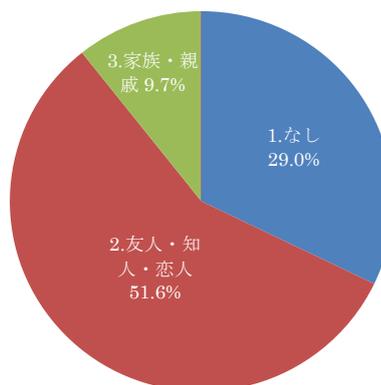
### 七条通商店街



(有効回答数 65)

同行者なしが55.4%で、実施場所の中で比較的多い。

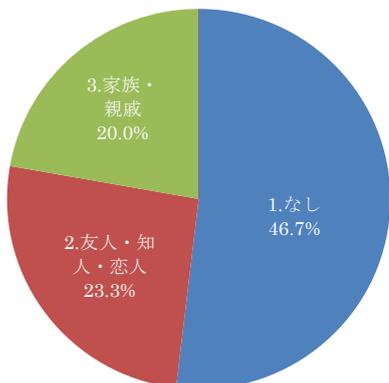
### 角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 28)

友人・知人・恋人との来訪者が実施場所の中で比較的多い。

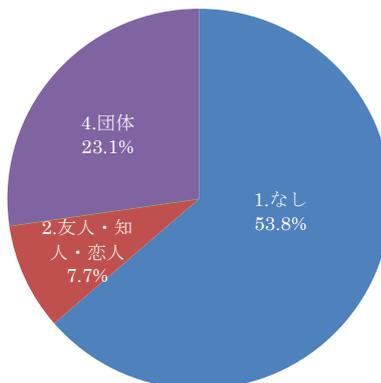
### あじわい館



(有効回答数 28)

同行者なしが46.7%で、実施場所の中で比較的多い。

### 京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

同行者なし・団体が、実施場所の中で最も多い。

## (属性⑥) 『来訪頻度』について

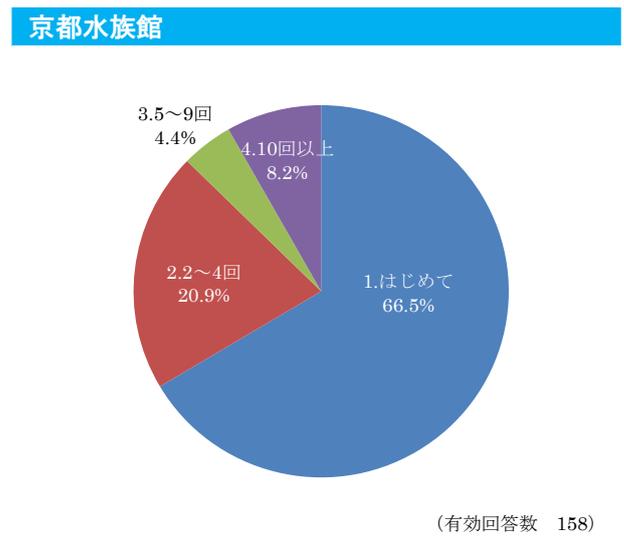
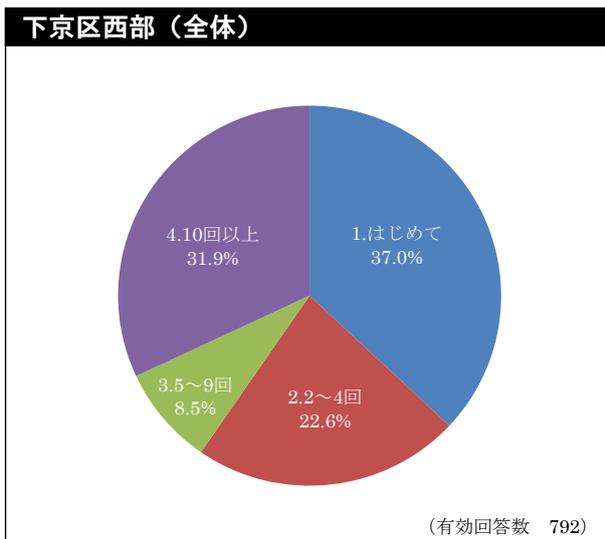
### 1) 質問内容

#### (6) 当エリアへの来訪頻度について

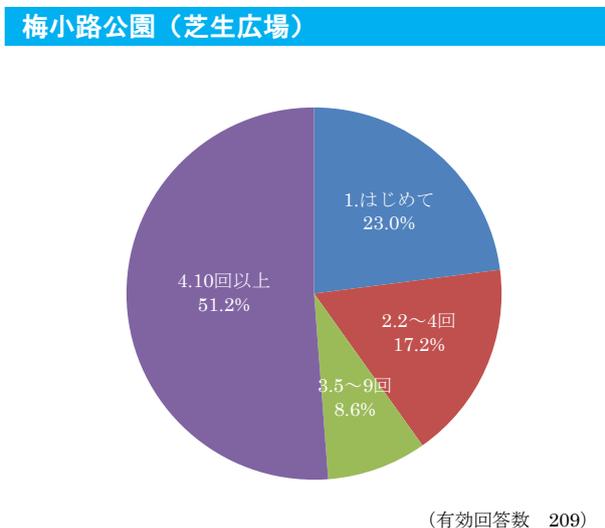
1. はじめて	2. 2～4回	3. 5～9回	4. 10回以上
---------	---------	---------	----------

### 2) 集計結果概要 (下京区西部全体)

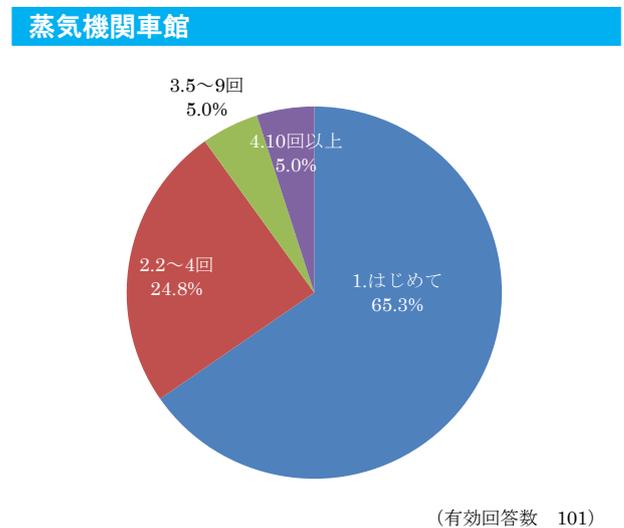
- ・最も多いのは「はじめて」37.0%。
- ・比較的多いのは「10回以上」31.9%、下京区エリア内に住んでいる方だと思われる。
- ・比較的少ないのは「5～9回」8.5%「2～4回」22.6%で、市内・府内・府外のリピーター層が少ないように思われる。



「はじめて」の来訪が66.5%で、非常に多い。

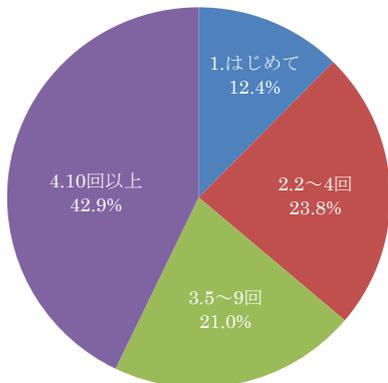


「10回以上」の来訪が半数を占め、「はじめて」が比較的少ない。



「はじめて」の来訪が65.3%で、非常に多い。

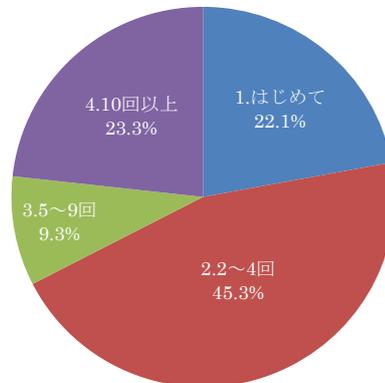
### 東本願寺



(有効回答数 105)

複数回の来訪が9割を占め、「はじめて」が比較的少ない。

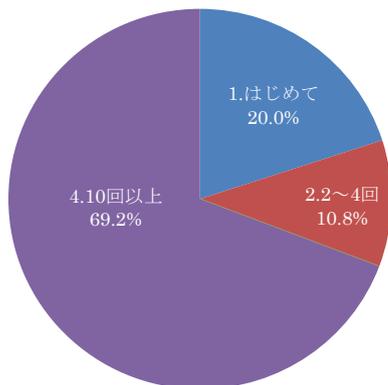
### 龍谷ミュージアム



(有効回答数 32)

「2~4回」の割合が実施場所の中でもっとも多い。

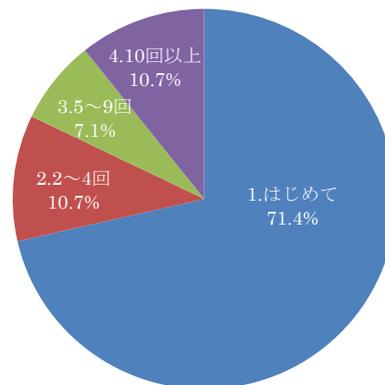
### 七条通商店街



(有効回答数 65)

「10回以上」の割合が実施場所の中でもっとも多い。

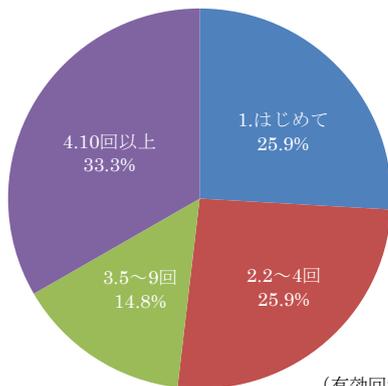
### 角屋もてなしの文化美術館



(有効回答数 28)

「はじめて」の割合実施場所の中でもっとも多い。

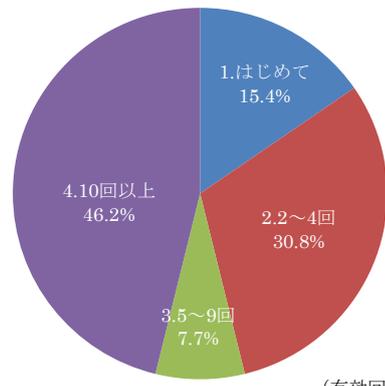
### あじわい館



(有効回答数 27)

全ての来訪頻度が、比較的均等に分布している。

### 京都リサーチパーク



(有効回答数 13)

複数回の来訪が9割を占め、「はじめて」が比較的少ない。

## (7) 「その他」の回答例 ～自由回答欄への記入内容～

### 来訪目的

料理教室	21人
納骨	6人
休憩	6人
お寺の奉仕活動	4人
他の用事のついで	2人
写真撮影	1人
スタンプラリー	1人
猫のえさやり	1人

### 直前の来訪場所

- ・「嵐山」「清水寺」などの観光スポットからの来訪者が比較的多く、それらの大部分が、水族館や東本願寺などでの回答である（→有名観光・集客施設間の回遊客）
- ・「学校」からの来訪者も比較的多く、それらの大部分は、水族館や梅小路公園へ団体バス移動の学生である。

地名	嵐山	5人	博物館・美術館	重森三玲庭園美術館	2人	
	市内	1人		青少年科学センター	1人	
	宇治田原町	1人		京都近代美術館	1人	
	上京区	1人		奈良国立博物館	1人	
	烏丸	1人		植物園	1人	
	河原町二条	1人		細見美術館	1人	
	祇園	1人		京都国際漫画ミュージアム	1人	
	四条	1人		風俗博物館	1人	
	伏見	1人		錦市場	6人	
	学校	13人		買い物	1人	
教育施設	大学	8人	河原町の高島屋	1人		
	京都コンピュータ学院・文化祭	2人	ユニクロ	1人		
	塾	2人	ヨドバシカメラ	1人		
	幼稚園	2人	梅小路カフェ	1人		
	教室	1人	食事	1人		
	深草学舎	1人	職場	3人		
	保育園	1人	市内の病院	2人		
	ノートルダム女子大	1人	桂駅	1人		
	清水寺	9人	京都タワー	1人		
	二条城	6人	近所の公園	1人		
寺社・史跡	三十三間堂	5人	その他	梅小路バス停	1人	
	寺	5人		駐車場	1人	
	金閣寺	3人		娘宅	1人	
	渉成園	3人		ハッ橋体験	1人	
	桂離宮	3人		友人宅	1人	
	伝道院	3人		京阪駅	1人	
	北野天満宮	2人		他府県	大阪	4人
	御香宮	2人			神戸	3人
	二条陣屋	1人			正倉院	3人
	京都御所	1人			滋賀県	1人
	広隆寺	1人	三重		1人	
	東福寺	1人	伊勢神宮		1人	
	南禅寺	1人				
	八坂神社	1人				
	伏見稲荷	1人				
	平安神宮	1人				
	壬生寺	1人				
	泉涌寺	1人				

- ・「あじわい館」の来訪者の約9割にあたる21名が「料理教室」の受講目的であった。
- ・「東本願寺」の来訪者の中には、「納骨」を目的とする方も複数あった。
- ・「梅小路公園」の来訪者の中には、「休憩」を目的とする方も複数あった。

### 直後の来訪場所

- ・直後の来訪場所でも、「嵐山」「三十三間堂」「清水寺」などの観光スポットへ赴く来訪者が比較的多く、それらの大部分が、水族館や東本願寺などでの回答である（→有名観光・集客施設間の回遊客）
- ・「学校」へ帰る団体バス移動の学生も比較的多い。

地名	嵐山	16人	博物館・美術館	京都市美術館	5人
	四条	11人		うどんミュージアム	2人
	八坂	4人		東映太秦映画村	2人
	東山	3人		大西清右衛門美術館	1人
	祇園	2人		青少年科学センター	1人
	北白川	2人		京セラ博物館	1人
	大原	1人		京都国際漫画ミュージアム	1人
	岡崎	1人		京都府立資料館	1人
	上七軒	1人		京都国立博物館	1人
	新京極	1人		サントリービール工場	1人
教育施設	高瀬川	1人	山崎サントリー工場	1人	
	寺町	1人	歴史博物館	1人	
	学校	12人	京都大学博物館	1人	
	ノートルダム女子大	1人	買い物	7人	
	深草学舎	1人	スーパー	4人	
	佛大四条センター	1人	錦市場	4人	
	保育園	1人	コストコ	3人	
	三十三間堂	5人	ニトリ	2人	
	清水寺	5人	ヨドバシカメラ	1人	
	金閣寺	4人	西利漬物屋	1人	
寺社・史跡	寺	3人	商業施設	食事	16人
	城南宮	2人		カフェ	2人
	大徳寺	2人		美濃吉	1人
	京都御所	2人		駅	7人
	安倍野清明神社	2人		職場	4人
	二条城	2人		京都タワー	3人
	伏見稲荷	2人		里帰り	3人
	銀閣寺	1人		レンタサイクル屋	3人
	智積院	1人		円山公園	2人
	知恩院	1人		京都友禅体験	2人
	ねねの道	1人	病院	2人	
	積山禅院	1人	公団の催し	1人	
	大仙院	1人	コンビニ	1人	
	北野天満宮	1人	町屋	1人	
	旧神先家住宅	1人	娘宅	1人	
	可笑庵	1人	他府県	大阪	3人
	三千年	1人		滋賀	2人
	高山寺	1人		九州	1人
	東福寺	1人		正倉院	1人
	仁和寺	1人		東京駅	1人
壬生寺	1人	三重		1人	

## 必要だと思う施設・サービス

- ・「清潔な洋式トイレ」や「駐車・駐輪場」などの要望が、エリア全体に比較的多く見られる。
- ・「バスの案内」や、梅小路公園付近への「鉄道駅」の要望など、公共交通の拡充・利便性向上に関する意見が比較的多く見られる。
- ・また、梅小路公園周辺の各施設では、「雨の日でも利用できる場所」等に関する要望も多く見られる。

場所	内容	人数
梅小路公園	きれいなトイレ、洋式トイレが欲しい	14人
	コンビニ	6人
	スポーツ道具のレンタル	5人
	駐車場、駐輪場	5人
	屋根のある場所、喫煙所	5人
	お好み焼き屋	3人
	パン屋	3人
	遊園地、遊具	3人
	椅子とテーブルが欲しい	3人
	ゲームセンター	2人
	スーパー	2人
	交通の便が悪い	1人
	授乳室	1人
	商店街	1人
	七条商店街をにぎやかにしてほしい	1人
	プール	1人
前の公園の方がよかった	1人	
七条商店街	洋式の公衆トイレ	2人
	屋内で遊べる施設	2人
	公共駐車場	1人
	デイサービス	1人
	バス停の電光掲示板	1人
蒸気機関車館	駐車場	2人
	落葉を掃かないでほしい	1人
	バス案内所	1人
	転車台、線路が一望できる場所	1人
	鉄道記念施設、交通博物館	1人
	多人数の無料で使える食事場(雨の時用)	1人
	樹木を多く植えて欲しい	1人
	梅小路公園に駅が欲しい	1人
犬が遊べる広場	1人	

場所	内容	人数
京都水族館前	遊園地	4人
	屋内で遊べる施設	3人
	屋根のある場所(雨対策)	2人
	風呂	2人
	遊具	2人
	図書館	2人
	駅が欲しい	2人
	犬が遊べる広場	2人
	質のいいお土産屋	2人
	ゲームセンター	2人
	案内・サイン(施設に誘導するもの)	1人
	座れるところ、ベンチ	1人
	外からでも買えるお土産屋	1人
	ゆっくりした場所がない	1人
	子どもが走るトラック	1人
週末利用ができる駐車場	1人	
幼児用遊具	1人	
東本願寺	トイレ	2人
	タバコが吸える場所	1人
	サインがわかりにくい	1人
	レンタカー	1人
	案内MAPがもらえる所	1人
	京料理が食べられる場所	1人
	交通手段	1人
	昔の建物を残してほしい	1人
	バスで均一区間内をどこまでも行きたい	1人
	市営駐車場	1人
龍谷ミューズアム	演芸ホール、文化ホール	1人
	自転車が通行しやすい環境	1人
	展示してあるもの印刷したパンフレット	1人